DECEMBER 18, 1920. NO. 7581

The Japanese American News

大正九年十二月十八日（土）第七千五百八十一號

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET,
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA.
PHONE PROSPECT 238
ENTERED AT S. F. POST OFFICE
AS SECOND CLASS MATTER.
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES
IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH..... 1.00
SINGLE COPIES..... 5 CENTS
BRANCHES
DENVER, FRESNO, LOS ANGELES, NEW YORK, OAKLAND, OGDEN, PORTLAND, SACRAMENTO, STOCKTON, SAN JOSE, SALT LAKE, SEATTLE, VACAVILLE, WATSONVILLE.

日米

滯日延長保證問題

徴兵猶豫壯丁の日本滯在期一ケ月を三ケ月に延期するの了解陸軍省との間に成したりと稱し、在米日本人會は數ケ月前公式文書を以て聯絡各日本人會に通告し、延期請願の保證書類を發結したるが、日本陸軍省よりの注意を受けて右保證書類の發結を中止し、事情調査を開始したりといふ。元來本問題に就きては、在米日本人會及び桑港總領事館は、各々或程度の責任を回避する能はざるなり。何となれば昨年末彼の寫眞結婚廢止問題起りたる當時、新徴兵令によれば徴兵猶豫期間は三十二歳より三十七歳まで延長せらるべしとの許可を心得違ひして保證書類を濫發し、陸軍省の一喝を受けたるは其非全く在日會其他に在り。別に調査すべき必要も餘地も無きこと始めより明白にて其責任は全然在日會側に在り。吾人は今回の失態に徴しても、在米日本人會の如き責任ある團體は頗る熱心に運動したる如く體は、今少しく慎重に、然かも誠實に總べての在住邦人の問題を處理せんことを希望せざるを得ず。

駐日大使候補者

ハーデング内閣の駐日大使候補者中、タフト内閣時代のアルゼンチン公使チャールス・シェリル氏もあり。昨秋東京に於て紳士協約に對する激女協約締結を提唱したる此人なり。在米日本人も結婚の自由を有せざるべからざることを承認せざる人なり。他の候補者の一人紐育銀行家ダングリップ氏も好對照なり。

正當か不正當か

加州知事スティブンス氏は中央政會兩院議員に書を寄せて、州内日本禍を繰返し、加州排日の立場を「正當」に理解せんことを求めたり。正當に理解するならば加州に日本禍無きこと明瞭なるべし。知事の所謂正當は排日論者の正當にして他に强要せんとする不正當に諂せん。

日本人を從來の如く排斥せず

▽墨國支那移民排斥

極東關係電報（十二月十七日聯合通信）

▲墨國の支那人排斥熱旺盛

▲墨國支那人排斥條約の交渉

▲墨國條約を廢業せん

▲支那人排斥新條約の交渉

▽日本人を從來の如く排斥せず

メキシコ官憲の談に曰く『メキシコと支那とは支那人の自由渡墨を保障せる最惠國條約に一八九九年華府に於て署名し其翌年之れを批准せり支那人は右の條約の最惠國條項を利用して盛んに入墨し太平洋沿岸の低加州シナロア及びソノラの三州に植民せり

華府に於けるメキシコ官憲の談に依ればメキシコ中央政府は近日支那移民排斥の手段を取る筈なりとされどオブレゴン政府は現行日墨條約を修正せざる依然として日本人の入國を自由に許可せんとのことなり

▲墨國の支那人排斥熱旺盛

『安價なる支那人勞働者と商人とは墨西哥太平洋沿岸諸州に殺到して鞏固なる根柢を據えたり生存競爭に於て支那人に對抗し得ざる墨西哥人は加州民が日本人を排斥する如く支那人排斥運動を開始しクレアカン、マサトラン及びグアイマス等に於て支那人排斥示威運動を行ひたり其結果墨西哥太平洋沿岸諸州は一九〇〇年の支墨條約を無視して支那人排斥の州法を立てたり』

▲支那人排斥新條約の交渉

新大統領オブレゴン將軍は一九〇〇年の支墨條約を廢棄して支那人排斥條項を含む新條約を締結すべく決心せり舊條約廢棄交渉は近日開始せられん（華府發）

▲附記—日墨條約に日本人の渡墨は保障され居るが日本は日米紳士協約に於て對墨移民を制限すべく約束せりと傳へらる。

●比律賓獨立案内容

ウイスコンシン州選出下院共和黨議員フリーア氏が十六日議會に於て比律賓獨立至急承認を主張せる昨報の如くなるが華府に於ける比律賓代表者デグエラ氏も議會に於て『比律賓人は完全なる獨立を希望す比律賓人は完全なる獨立を維持し得べし』と説明せり

●駐日獨逸大使名譽

日本の著名なる學者二百名は獨逸の日本學界に寄與せる貢献を感謝し獨逸學者の將來の努力を鼓舞せんが爲めに十八日在駐獨逸大使ゾルフ博士及び大使館員一同を主賓として晩餐會を催す筈なり（東京發）

●日英密約目的曝露

昨報の如く米國下院の戰時船局調査特別委員會に於て英國戰時の私利私慾を暴露し山東半島に關する日英佛の密約と米國とも關係を曝露せる船舶局員デンマン氏は十六日夜改めて日英佛の密約に就て左の如き聲明を試みたり

▲日英佛は支那に參戰を促す

日英佛三國は米國參戰前山東半農に關する密約を締結せる際（一）支那を聯合軍側に加擔せしむ（二）支那港灣に於ける敵國船舶を沒收し日英佛三國間に分配する（三）の密約を結びたり（華府發）

●米國東洋艦隊司令官新任

米國海軍省航機關局長ジオセフ・ストラス少將は今回大將に昇進しグリーグ大將に代りて米國東洋艦隊司令官に任命せられたる旨海軍卿ダニエルス氏は發表せり海軍卿の談に依ればストラウス提督は戰時危險を冒して北海に水雷を布設し休戰後之れを掃蕩せり海軍省は論功行賞の主義に基きてストラウス提督を米國東洋艦隊司令官の重任に推擧せるものなりと（華府發）

●委任統治内容秘密

歐洲新情勢電報（十二月十七日聯合通信）

十七日の國際聯盟總會本會議は引續き聯盟新加入承認問題と聯合列强の前獨領委任統治問題とを審議せり委任統治調査委員會の報告に依れば聯盟理事會はシリア、メロポタミア及びパレスタイン國の委任統治内容を秘密にしつゝあり十七日の總會にて右の秘密主義問題となり弱小列國は列强の横暴を非難し種々なる皮肉的質問を試みたり

▲日本前獨領占有權を擁護

米國國務次官デヴイス氏と駐米遥羅公使とは十七日商通航海條約に調印せり米國は右の新條約に於て遥羅に於ける治外法權を放棄すべく宣言せり（華府發）

●ウ氏住宅を購入

大統領ウイルソン氏は華府西北區エス街二三四〇のハンリーフ

●米遥新條約

●意味するならば

●喧嘩は相手を必要と

●戰備充實せざるが故に

●友邦と思惟しつゝあり

●日米間に戰

●戰爭を望まず

●日本一般國民は戰爭を好まず

◇米紙の日本軍閥論

＝日本一般國民は戰爭を好まず＝米國は戰亂防止の爲めに軍備

●獨逸國交通商開始

愛蘭新自治法實施されん

●アルバニア聯盟參加決定

●アルメニア出兵案を提出

●駐日米使後任物色

米大陸電報（十二月十七日聯合通信）

●ハ氏ブライアン氏の會見

●國務卿旅行消息

●北京の地震

●過激派英國宣傳

●比島人感謝

●副大統領と閣議

●移民案審議

●聯盟會閉會

●黑白人人種爭鬪

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.
415-429 Sansome St., San Francisco, Cal.
P. O. Box 3125 Tel. Kearny 1396

THE SUMITOMO BANK, LTD.
(COMMERCIAL)
315-319 California St., San Francisco, Calif.
營業種類 本國定期預金（年六分五厘以下）本國特別小口當座預金（目下年六分五厘以下）
是は預金を定めず何時にても御引出しが出來又利息は毎年當行にて元金に組入れますから毎年への複利の預金です
本國通知預金（目下日步一錢五厘）
大阪市東區北濱五丁目
株式會社住友銀行
社長 男爵 住友吉左衛門
外國爲替手形貿買、取立、信用狀發行、貸附其他
支店 日本内地及海外樞要の處に三十六ケ所あり
桑港支店 桑港カリホルニア街三一五—三一九
桑港支店の點は御遠慮なく御問合せ被下度候

片手美人 黑岩涙香譯
▲佛國貴婦人社會の赤裸々な生活を描寫して妙
▲若き銀行家と片手美の繼の行末は何う乎
▼有罪無罪を讀みたる方は尙更に本書を（一弗半）

浪六全集（第十七卷）（二弗）村上浪六著
▲「十文字」「うき舟」「煩悶病院」の三大妙篇を收む
▲皮肉と諷刺とを併せ有する天下の快文集
▲讀んでた瞬の宙返へりの感ある眞に是れ々々

英字新聞讀破自在（十二版 赤司繁太郎著）
▲英文新聞を讀破するには是非本書を持て
▲新聞慣用語三千を選び說く可嘆懇切
▲最新語言說明を設け總ゆる新語を網羅す（二弗）

練習式手紙の文 岸蘆風著
▲初心者に必要な手紙の書き方を敎へてあります
▲どんな時でも應用できる樣な文例を載てあります
▲年賀狀やお祝ひ文出す時に用ゐなさい（一弗半）

北米の五車堂
Tel. West 5488 1698 Post St., S. F. Cal.

小田運送店
ポスト街一七七六 電話フィルモア四六六一

朝日運送會社
桑港ブキャナン街一六〇 電話ウエスト一七一七

デユポント商會
桑港グリー街一五〇三 電話ウエスト一八三六
食料品雜貨 洗濯用品一切
日本行滊船切符御申込に應ず

日本御料理 小川ホテル
桑港カリホルニア街六一二 電話カネー一八一六

帝國ホテル
551 Pine St., S. F. Cal.
日本行滊船切符販賣
羅府東第一街三三一半

みかどホテル
3814 E. First St., Los Angeles, Cal.
日本行滊船切符取扱（電話）一一七〇四

明治神宮紀 溝口白羊著 七、〇〇
象牙の塔を出て 厨川白村著 二、八〇
信仰の悅び 宮川經輝著 二、三〇
ロシア社會學 波多野鼎譯 一、九〇
民衆と宣傳 加藤咄堂著 二、〇〇
青木大成堂
1601 Geary St., Tel. West 5364 San Francisco, Cal.

横濱正金銀行 桑港支店
本店 資本金一億圓 積立金五千萬圓
預金總額五億一千六百萬圓
外國爲替預金送金貸付割引等一般銀行業務一切
郷里送金 日本全國何レノ地ヘモ簡手數料最近便ニテ發送

新土地法と農村論（五）

＝日米社秋期講演會十一月二十日＝
＝櫻府櫻學園に於ける講演の梗概＝

日米新聞社長 安孫子久太郎

私は第二に外國人に對し同情を缺いた話しであると申しましたが、人間には先天的に同類相寄り、同族相集まる本能があります。米國の過去、現在に亘つての民族的分布を見ますれば立派に證明されてゐると思ひます伊太利人は伊太利人の居る所に集まり、希臘人は希臘人、獨逸人は獨逸人で集まります。自然の理であります。何故なれば、言語は日常生活中何よりも必要缺く可らざるものでありますが當初は中々外國語を急に語り得るものではありません。して見れば分る言葉を語り得る所に生活するのは當然でせう。夫れのみではありません。習慣、風俗、傳說、歷史、社會生活の樣式の關係より致しまして、一民族又は一國民には夫れ〳〵特別な情緒があります。夫れを慕ふのは無理がありません。此等は何れも自然の事で決して無暗に破り得る性質のものではありません斯樣に申しますと何と無く私は最近の米國の大運動である米化運動に反對してゐるかの如くに響くでありませうが私は決して反對をしてゐません。大贊成の一人でありますが其方法に於て多少異なる所がある丈けであります。而して私は私の計畫が事實に即した、實驗に基いた、實行し得るものであると確信してゐるから申し上ぐる次第でありまして、私は、原理、原則から無理に活きた人間を機械のやうに動かさんとする方法に贊成し得ぬ、又夫れは實際に行はれず且效力の乏しいものと信ずるのであります。人情を無視し、人性に同情を缺いた政策の行はるゝ理はありません。政治は人情の機微に即したものでなければなりません。外國人に同情を有ち、人情的に同化又は米化の實を擧げんとすれば私の申す農村のやうなものを造らねばならぬと思ふのであります。

斯く申しても私は大眼目として凡ての外國人は米國に同化する必要あるを見てゐますからして漸次的に同化する道路に故障あるものには反對であります。まで申しますのは、大仕懸けな農村やら町を造つて幾千といふ日本人が一つ所に堅まるとには反對であります。其所で何の位な程度で日本人が一所に集まるが得策かといふに加州大學のミード教授の意見では百戶を以て單位とするとありますが、夫れは日本人計りでなく一般外國人の場合を總括的に申した所でありますから果して日本人に應用が出來るか何うかは疑問であります。私は先づ五十戶內外が適當ではないかと思ひますが此の點は正確に決定してゐませんから未だ研究の餘地あるものとして數を限る點は後日に讓つて置きます。兎に角斯樣にして一農村を作りまして其所で協同的に農業を經營し併せて敎育其他の事に從事し相倚り相助けて行く上に、隣りの米人社會に社會的、團體的に交際をして參りますれば、日本人の短所は曝露されず、長所が現はれて參り、又米國人の方からも長所を學び短所を眞似ないといふ事になり、無理がなくなり、不便が減少して參ります而して第二代目の時代には米國生活が自由になつて來ます所から又各異つた方面に親善の方法を講ずるに至ります譯で、非常に好都合であると信ずるものであります。

夫れ故私は農村が米化運動又は同化に故障あるものとは信せず隨つて反對論を其儘に受け取り得ないのであります、否寧ろ農村を作る事が却つて米化の實を擧げ、同化を早うする所以であると確信致しますが故に二個の點より農村反對論を批評した次第であります。

◇日本官憲を恐れしむるは 露西亞人よりも鮮人支那人

過激思想取締に苦心する當局
某國にある鮮人にも監視の眼

◇東京鮮人二千數百橫濱の露人六百五十◇

世界各國とも過激主義危險思想の防止に就て政府當路は頭痛鉢卷の體であるが西伯利にレニンの手が及び支那滿洲に赤化宣傳者の入込みりと傳へらるゝ際日本官憲の之に對する

▼警戒 は他國以上である今度海外に思想研究專門の高等官を派遣して取締方法を研究せしむる議が出たなどは其一面を語るものであらう、外來の危險思想取締に就き日本當局の語つた處をして傳へらるゝものを見るに現今日本の官憲の最も恐てゐる危險思想媒介者は所謂不逞の

▼鮮人 と支那人で次に本場の露西亞人が來ると云ふ譯は主として鮮人支那人は文字の上で日本人と接近するに易く加ふるに頗る慘虐性を帶びたものが多いに反し露西亞人は如何に熱心に宣傳しやうとしても言語文字の不通なのと面半の異る爲め之を取締るに比較的容易だと云ふに在る今

▼東京 では約二千五六百人の鮮人が居る其內取締を要する徒は學生に多く一部は獨立主義一は過激主義に化ぶれ朝鮮を共產制度の下に置かうとする輩である前者は比較的穩かだが後者は實に怖るべき陰謀を常に企てて其の某國宣敎師の後援を受けてゐる者は特に日本官憲の眼を光らせてゐる故に

▼當局 は某國在留の鮮人に對しても出來る丈けの消息を得べく努力してゐる過激支那人は北鮮や間島地方に鮮人と結託し之に露西亞人の宣傳者が加つて居り其獰猛なる事恐るべく若し之が內地に潛入したならば一大事である、露西亞人の最も多く住む橫濱には目下六百五十人ばかりの

▼露人 が居り內六分は猶太人で過激派の疑ひを以て監視中の者が澤山ある次に露人の多いのか神戶で長崎と敦賀は素通りなる丈けで居住人は少ないと云ふ事である

●在米者の歸國 再渡航問題

▲支那人の先例

日本人商業會議所より當地の支那人商業會議所に或る必要より支那人の再渡航に就て訊合せたる所昨日其回答に接した其回答に依れば支那人の

▲再渡航 はビジネスマン及びクラーク（荷造人其他を勞働者と認めて除く）だけは米國に一年以上在て事業に從事した事の米國官憲證明あれば再渡航が出來る併し再渡航には駐支米國領事の證明必要である洗濯所及びレストラントは含まれないビジネスマン以外の勞働者、農業家は絕對に再渡米が出來ない妻はビジネスマン及びクラークに限つて既婚の妻を呼寄せ又は歸國同伴が出來るビジネスマンと雖も却々再渡航に手數がかかる云々とあつたと

◇女學生お斷り

劍橋大學の女人禁制

英國の主要大學中唯一つ女學生の入學を許さぬ劍橋大學は此程女學生に同等の待遇で入學せしむる議案を附議し投票の結果九百四票對七百十二票で否決し相變らず女は女自身の大學を持つがよいさと女人禁制主義を採用したさうだが極東の英國を以て任した日本では今頃新らしい女の强請に會つて門戶開放の下相談をしてゐる大學が多いからチト去就に迷ふ事ちやらう

●高等師範を 文理科大學

▲昇格の五專門學校
▲七學校に專攻科を

日本政府は本年度に於て各種專門學校を大學に昇格したるが明年度更に東京及び廣島兩高等師範學校を昇格して名稱を文理科大學と改稱すべく東京大阪兩高等工業學校及び神戶高等商業學校をも大學に昇格すべしと右五校昇格の外

▲盛岡高等農林學校▲鹿兒島高等農林學校▲小樽高等商業學校▲長崎高等商業學校▲秋田鑛山專門學校▲上田蠶絲專門學校▲熊本高等工業學校

の七校には新に專攻科を設け同科を卒業したる者は學士號を受くる事とすべく其財源は公債に依る事に閣議の承認を得たりとて現內閣は之を以て一先づ高等敎育機關の問題を打切る方針なり

●英海軍大將來る

▲日本を訪れて來桑

歐洲大戰中米海軍のシムス提督と共に英米聯合艦隊を編成し愛蘭海軍防備に偉勳を樹てたる英國海軍大將サー・ベイリー氏は今回大戰中の部下たりし米海軍軍人の招待に依り令姪ミス・ボーゼーを伴ひ渡米の途去月末日本を訪れ諸所觀光し居たるが本月十日橫濱出帆のエタワドル號にて來桑の途に在りと

◆默囀錄（八） 尺魔

□日本政府の無思慮（下）

▲（密議の一節前號の續き）話題一轉支那人問題に及ぶ。

マ知事『支那人の投票數は……一千九百十八年九百五十四なり故に支那人の投票を左右することを得ば事實に於て選擧を左右し得べし』

議長『然らば選擧に於て日本人よりも支那人の方が懸念すべきにあらずや』

マ知事『然り、然れども支那人投票者は決して支那を念とせず、彼等は米國のみを思ふ。支那人の背後には何物もなし、彼等は米國市民なり彼等は米國以外何物をも念とせざ』

議長『然らば支那人の投票を妨害するが如き必要なきや』

マ知事『決して無し』

フイラン氏『貴下は今日本政府が布哇に於ける日系市民の政治的行動を支配しつゝありやの疑念を懷くものなりと述べられたり。日本人が其出生死亡を領事に屆出づるは事實なるか』

マ知事『然り、日本領事館は布哇政府よりも正確なる出生屆を有するものなり』

（知事は出生證明に就いて述ぶ一部東洋人が米國の出生證明を得るは該證明を以て後日市民たるの證據とするに過ぎずと）

フイラン氏『加州にあるが如き詐欺的行爲が布哇にもありや』

マ知事『然り、出生證明を與ふるに際しては書記生及び關係は極めて嚴重なる審査をなしつゝあり、然るに布哇には報酬を取りて出生證明下附を補助する一種の職業ありて此等の人物が證人となるものなるが其證言中には實に畏るべきものあり。日本人以外には少くとも東洋人以外には斯る證言をなすものなかるべし、彼等の行動は恰も砂中に頭を埋めて既に全身を隱匿し終れりと安心する駝鳥に似たり。何人か駝鳥の姿を認めざる。予は本問題に關し縣書記官より出發前報告を得たり』云々

▲見よ。米國領土內に於て日本領事の執務及び之れに關係ある日本人會が如何に米國人に疑惑を與ふるかを見よ『一國政府の下に別に一政府を設くる』といふ非難が如何に眞實らしく彼等米人の眼に映ずるかを見よ。上院議員にして移民委員なるフイラン氏の如きは先づ布哇知事に馳せ、其類似の報告を徐ろに聽取したる後に眼を加州の日本人に注がう。而して彼れが在米日本人會を如何に疑つたであらうか。

▲我等日本人の事情に慣れたる者の眼より見れば日本政府が在米日本人を强いて本國の命令に從はしめむとする意志なきを知る。唯だ國籍法の不完全より胚胎せる官僚の執務が今の領事館の仕事となり軍國主義の遂行と疑はるるを嘆せざるを得ないのである。そして國際的の情誼に通ぜざる故國政府と其代表者たる刀筆の俗吏が無省察の爲めに强て在留一般を疑はしめ如何に多くの難癖の理由を作らしむるかに想到する時、我等は一日も早く其惡弊より脫し、二重國籍の如き紛はしき法律の改正を要請せざるを得ない。一方には歸化權を要求しながら一方には歸化拒絕の種を蒔き、更らに在米日本人の利益の爲めに設立した日本人會が反つて日本人を恐るゝ疑はるゝ病根を植えつゝある事の事相は實に慘憺たるコントラストである。

●故國發信の 飛行郵便量

▲大凡そ三千通限り
▲ヴ港沙港間を速送

米國郵政院にては最近シヤトルヴイクトリア間の飛行郵便を開始し東洋間の郵便物に便宜を加へたる事既報の如くなるが郵政院より日本遞信省に發したる電報に依れば日本發の

▼書狀葉書 は大約二百三十封度以內に限り飛行機にて遞送に應ずとありたるより日本當局は東京中央局、橫濱、神戶、大阪、中央及び長崎各郵便局より米國宛普通書狀及び葉書を各重量制限內に於て飛行郵便物としてヴイクトリヤ經由差立つる事と爲したる由にて之はヴ港に寄港する

▼日本郵船 及び大阪商船汽船に依り差立つるものに限ると因に二百卅封度の書狀產業は大凡そ三千通に達すべしと

●米國總人口

▲一億五百七十萬と發表

華府電報に依れば米國國勢調查局にては昨日午後四時を以て全人口一億五百七十萬八千七百七十一と發表し各州別人口の完結統計をも發表せり是等の數字は直に議會下院に報告され下院は之に依り新に議員數を規定する基礎となるらん

●外人土地法 改正案提出

▲愈々來る議會に

日本政府は來る第四十四議會に愈々外人土地所有法改正案提出に決し兪りと該案の提出を以て加州排日土地法の影響と目せらる者なれども同法は明治四十三年第廿一議會の協贊を經て分布せられたるものにして施行期日を勅令にて發布されざりし爲め今日に及びたるものにて今回に於ては之を直に施行し能はざる幾多の缺陷あるを以て之を補修する目的にて改正案の提出に決したる次第なりと

●ウオール街 年末の景氣

▲一割五分から二割五分
▲の賞與を發表せる銀行

米國財界の中心たる紐育ウオール街の年末景氣を見るに過去三年間の如き浪費的氣分を缺き居れり之は過去數ケ月間に起りたる世界的經濟界の反動にウオール街に及ぼせる影響の大なるを語るものなり然れども數個の大銀行にてはボーナスとして年俸の一割五分乃至二割五分を支給することを發表し又或方面にては年俸の五割のクリスマス・プレゼントの外新年より增給するべく期待さる株式仲買及びコンミツシヨン・ハウス等にては過去の夢を見る能はずと雖も各取引所にては雇人全部に一般的賞與を與ふべしと紐育電報は報せり

■要求欄■

人事

婦人 月給六十弗三人家內のハウスワークに料理せず英語を話す女入用 委細下記へ 2889 Pacific Ave.

洗濯見習一名入用 ターク街五七九 マークリ洗濯所

職工一名入用 熟練なるアイオン師一名、洗場一名至急入用 給料面談の事 シテーホール洗濯所 モ府サンパブロ街二三六三 電話オークランド三六三九

職工入用高給を拂ふ マーク附洗場カウンター各數名至急入用 委細下記へ 王府ユニオン洗濯所 2510 Filbert St., Oakland, Calif.

職工至急入用 見習一名 アイオン一名 右高給を拂ひ旅費を支給す夫婦者にても宜し委細は1121 Stockton St., S.F. 淸造 ネバダ州 フアロン洗濯所

女教師招聘 希望者は履歷書を添へ御申込を乞ふ Colusa, Calif. Kindergarten, Cor. Main & 9th St. コルサ日本學園

苗歩合耕作者二組募集 希望の方は左記へ御問合を乞ふ マウンテンビユ 郵函一五四 藤井商店

夫婦者入用 委細面談 電話パシフイク二六二四

■物件■

住家貸し度し 1944 Calif. St. Tel. West 2550

古本買入 123½ N. San Pedro St. L.A. Calif. 文明堂書店

■尋ね人■ 友田自治夫君 Rt. 2 Box 947 Los Angeles, Cal.

尋人 松嶋坂太郎 233 S. El Dorado St. Stockton, Cal.

尋人 木內芳廣 P. O. Box 757 Marysville, Calif.

尋人 和田喜信君 710 Madison St. Oakland

・大和重市

平田淸一 155 N. Central Ave., L.A. 小山万吉

水晶印形 甲州堂 1311 Eddy St., San Francisco, Cal.

元吉寫眞館 電話ウエスト一〇五四

吉里寫眞館 桑港フイルモア街一四三七 電話ウエスト八六五〇

男帽子は古い店で信用のある フイルモア街千四百五十七番（オツフアレール街の角）の CALIFORNIA HAT WORKS より買ふのが一番よろし

年末大勉強 ミート チキン あたらしき魚 食料品一切 野菜類 海陸商會 桑港ラグナ街一六一一 電話ウエスト四五〇五

◎年末大安賣◎ クリスマス歲暮御贈答品 ●日本人向き、白人向き、小供衆向き● 洋服オバコート、ドレス 和洋雜貨類 ◎商品全部破格の大安賣 桑港ポスト街一七〇一 日米物產商會 電話ウエスト三二一〇

日本行切符取次所 山口屋旅館 フエリーより一番近き旅館歸國迎妻者に便利な場所 37 Jackson St., San Francisco, Calif. Tel. Kearny 2437

自由公債 買入及び抵當低利貸金 貸金 質屋

上等婦人帽子 特別勉強 ローズ帽子店 フイルモア街一六四〇

懸値無 寶石店 FILLMORE AT POST.

特價販賣 フォード自動車 FLYNN & COLLINS 500 Golden Gate Ave. Prospect 506 日本人部 主任 山田友哉 電話王府六五四九

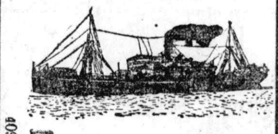
精肉切賣 並にすき燒 博多屋

英語教授 Miss C. RYAN. Tel. West 6125 3105 Clay St., S.F.

時計寶石類 廉價販賣修繕 板谷時計店 桑港ポスト街一六六九 電話フキルモア一六四五

和洋雜貨、時計、寶石類、煙草 財滿商會 桑港グリー街一五一五 電話ウエスト九三九二

本年度 新茶定價表 相馬茶店 234 E. First Street, Los Angeles. 電話六三二一九八



シアトル出帆廣告

船名	日	時
諏訪丸	一月四日	午前十時
伏見丸	一月廿七日	午前十時
香取丸	二月十四日	午前十時
鹿島丸	三月十一日	午前十一時

日本郵船株式會社 シアトル支店 409 Colman Bldg. Seattle, Wash.

ナイル號 十二月廿四日出帆 支那郵船會社

船名			
靜洋丸	十二月十九日	十二月廿一日	波止場卅六番
春洋丸	十二月二十日	十二月廿九日	同
ペルシヤ丸	十二月卅一日	一月八日	
海洋丸	一月中旬		貨物船日本行
これや丸	一月十三日	一月廿四日	
安洋丸	一月六日	一月十日	ホ市經由
さいべりや丸	一月廿九日	二月八日	
天洋丸	二月九日	二月十八日	
紀洋丸	二月十九日	二月二十一日	

東洋汽船會社 マーケツト街六二五 電話サター三九〇〇

汽船切符取扱 日本ホテル 桑港スタクトン街七三八トンネル口 1551 Laguna St. San Francisco, Calif. 電話ウエスト五二一五

藝備旅館 日本行汽船切符取次所 館主 杉岡岩治 電話ガーフキルド二〇五九

田村旅館 御通知次第趣意書贈呈 日本行汽船切符取扱 館主 田村信吉 440 Pacific St. S.F. Calif. 電話ガーフイルド二一九六

御菓子御商 菊屋商店 家具 ホワイト裁縫ミシン特約販賣店 宮崎家具商會

尺八 かすみ會 桑港ブキヤナン街一七三一 1731 Buchanan St., S.F. Calif.

本館開業 紀の國屋 各位の御愛顧に依り從來の旅館手狹に相成候に付き今回サウスパーク八四に本館を新に開業已に諸般の設備完整仕居候間倍舊御引立被下續々御投宿希上候 館主 汐崎善之助 本館 桑港サウスパーク八四 84 South Park San Francisco, Calif. 電話架設中 分館 桑港ブキヤナン街一六二三 1624 Buchanan St., S.F. Cal. Tel. West 5546

Taisho Drug Co. Tel. Wese 5977 1601 Post St., S. F. Cal. 歐米藥品、日米賣藥、和洋高等化粧品 醫療器械、ゴム製品一切 公認 大正藥舖 藥局 多年經驗ある日白人藥劑師によりて適藥を低廉に提供す 桑港ポスト街一六〇一ラグナ街角 電話ウエスト五九七七 通信販賣は特に迅速に郵便無料で取扱ひ致します

醫者と病人 專門通譯 諸病各科專門白人名醫を紹介し懇切に一切の御世話をする、質問隨意、應答無料 ●鈴木事務所 桑港ブキヤナン街一七三一 電話ウエスト八二一四 K. S. SUZUKI'S OFFICE 1731 Buchanan St., S.F. Calif.

本社東京特電（十二月十七日午後六時着）

◎日本内地の總人口五千五百九十萬人

▼男十人に對し女九人の割合

＝國勢調査の結果發表さる

本年十月一日を以て施行されたる第一回國勢調査の結果は一道三府四十三縣の人口は五千五百九十萬人にして男女の比例は男子十人に對し女子九人の割合なりと發表されたり

記者曰く　日本の人口は從來一口に七千萬同胞と稱せられ居りしが特電の示す内地總人口に加ふるに朝鮮臺灣等の人口を合するも所謂七千万同胞に達せざること今回の調査に依り分明せり從來市町村役場に依り行はれたる戸口調査及び警察人口調査による數が實際に遠く東京大阪京都其他都市の人口が今回の國調により孰れも減少せるの觀ありしは屢報の如し因に臨時國勢調査局當局の内地人口豫想數は五千七百万なりしをもつて實數は豫想より百十万餘なかりし譯なり

◎森林美を誇つて居る美しい獨逸の國民性

＝大戰に自國山林を荒さず占領地から用材を取つた＝

日本では樅、栂が不足してる

◇歐洲山見物＝大和の山持、岩本氏談

伊勢の諸戸、大和の土倉と竝び謠はれた大和の大山持ち奈良縣吉野郡上北山村の岩本武助氏は歐米の森林業の視察を了へ今便春洋丸で歸朝すべく

▲來桑し　たが其談に曰く「私は獨逸に最も長く滯在し同國の森林狀態及び伐採方面を仔細に見て來た、瑞西の山林は風景の絶佳な點に於て世界に誇つてゐるが林業をしては餘り見るべきものがなかつた、流石に獨逸は林業に於て誇つて居るだけに却々有益な視察が出來た、始め私は今度の

▲大戰の　爲め獨逸の山林は荒敗して居ることゝ思つて彼國に入つて見たのであつたが其實際狀態を見て私の豫想は忽ち裏切られて仕舞つた、獨逸は大戰に於ての美事な山林を保存することに苦心し用材は全部占領地帶の山林を伐採して之れに充てたのであつた戰跡を見た時に獨逸軍の用ひた

▲塹壕に　は立派な板を以て半永久的設備してゐたが之れ等の材料は自國の山林から供給したのでなく皆占領地の山林を濫伐して用ひたものであつた實に獨逸國民は森林美を誇として居て日本のやうに濫伐などは決してしない故に何處に行くも蒼々とした立派な森林を以て覆はれてゐた

▲山を見　るのが私の目的であつたから獨逸でも都會などに出ず田舍ばかりを廻つたが戰敗國の慘狀は田舍にまで及んで甚だしいのは跣足で濟ませてゐた子供など皮の靴をはいて居るもの皆無で木製の靴をはきた位であつた瑞西では殆んど山と云ふ觀念を失はさせる位に

▲鐵道の　便を發達させ一萬二千尺、我富士山の頂上位の所まで鐵道を通じてゐた今度私の郷里の大和の北上から紀伊の川に出で加太町に續く山林鐵道の計畫があるので私は山林の鐵道を特に注意して調べて來たが各國共に此方面は却々發達してゐた日本では造林などに是れまで餘り

▲意を拂　はなかつた爲め濫伐し禿山を澤山作つた日本では杉檜は兎に角現在の需要に伴つて行けるが樅、栂の類は不足を來たして居る戰時中箱が海外に輸出されたので末口六寸位迄伐木し尢製紙用原料のパルプも非常に不足して居る今後

▲日本の　造林及び保護に留意し立派な山林を作らなければならない」云々と

●盛大なる加州

鑵詰工業

年産一億四萬弗

＝桑港商業會議所發表＝

昨日桑港商業會議所にて發表せる統計表に依れば加州に於ける鑵詰製造工業は頗る盛大なるものにて其生産額は合衆國内何の州よりも遙に多く或は他州の全部を合計せる製造高に勝れるやも知れずと云郎ち昨年度の加州産出鑵詰總價格は一億八百九萬六千六百七十五弗にして加州の最も重要なる生産工業の一なるが之に關しシイ・ビー・シイの委員長アームスビイ氏は曰く『今より約四十年前即一八六八年の

▲加州産　出果實鑵詰は僅かに七千ケースに過ぎざりしものなるを逐年急激に進歩發達せる鑵詰をも加へ遂に昨年の如き鑵詰製造工業は果實の他野菜類總額二千萬ケース郎ち四億八千万鑵を産出するに至れり尤も之は各種の果實野菜類を多量に産出し得る加州の

▲肥沃な　る地味にも依るもの

●會社側は拒絶

要求＝拒絶

▲全渡船停止か

＝明日午後罷業決行と＝

既報桑港を中心とする灣東灣北各線渡船從業員が突然一人一ケ月卅弗の増給要求を會社側に送り四十八時間以内に決定を迫りしに對し各線渡船を經營する鐵道會社は

▼熟議の　結果昨日に至り從業員側の要求を拒絶せり一方此の拒絶に接したる從業員側は其の屬せる三同盟代表者會合して協議を開始せるが昨夕迄の形勢にては多分十九日午後を期して全從業員の罷業決行さる可き模樣なりとの事なるが會社側は比較的

▼樂觀の　態度を持し居るものゝ如し因みに若し罷業決行の場合には渡船に依り桑港に往復しつゝある約二十方人の市民は交通を斷絶さるゝ豫定なり

◆本日の英文欄

論説欄には十二月十二日の社說「私刑考察—國民性の脫線」及び十二月十六日「事實の提示——勞務廳報告」及び十二月十五日の短評「カーン氏の憤激」「軍備半減決議案」等の譯を載せ其他は東洋移民排斥に關する論文及び日本歷史物語及「猫」等なり

●桑港警察の

暗黑面摘發

▲中央祕密探偵活動

既報桑港市内廓正問題に關し桑港駐在合衆國官憲が一朝に至り突然市警察官中の或る者が醜類より收賄して之れ等の徒の不正業を默過しつゝありとて詳細を中央政府に報告せる爲め

▼桑港市　警察と合衆國祕密探偵との間に一衝突を生じたるが中央官憲側の主張せる處に依ればは由來風紀上幾多の非難あるゴールデンゲート街とジョンス街とのムース舞踊場附近受持ち警官が舞踊場經營者より祕かに保護を加へ居れる事實を握り居れりとのことにて

▼必要に　應じ同種の罪狀を幾多摘發せんと稱し居つゝあるに對し警察側にては昨夕に至り右は全然事實無根のチャージなりと辯明せるが本問題は今後意外の方面に發展を見る可く豫期されつゝあり

●九千九百餘の市民署名を集めて

兩警察判事

▲免職の運動

引續き問題となり居れる桑港警察法廷疑獄事件に關し問題の中心なるサリバン及びオッペンハイム兩警察判事の容易に辭職せざる爲め反對側は

▼躍起　となり遂ひに市發展同盟會及び其の他數團體發起となり市民の署名を蒐めて強請的に兩判事を辭職せしむる要求書を桑港市に差し出す事に決定し愈々昨日より署名蒐集運動を開始せるが所定の署名數は市長選擧の

▼投票　數の十分の一にして郎ちロルフ市長を選擧したる總投票數九萬九千九百七票の十分の一なる九千九百九十一票を集むる豫定なりと

●明後年迄の

瀛船發着表

▲東瀛の北米航路

昨日東瀛桑港出張所にて發表せる明後年二月迄の客船桑港發着豫定表は次の如し

船名	着	發
春洋丸	十二月廿日	十二月廿九日
		大正十年
波斯丸	十二月卅一日	一月八日
これや丸	一月十三日	一月廿四日
四比利丸	一月廿九日	二月八日
天洋丸	二月九日	二月十八日
春洋丸	三月六日	三月十六日
波斯丸	三月廿七日	四月五日
これや丸	四月三日	四月十二日
四比利丸	四月十六日	四月廿六日
天洋丸	四月卅日	五月十日
春洋丸	五月廿四日	六月二日
波斯丸	六月十三日	六月廿一日
これや丸	六月廿一日	六月卅日
四比利丸	七月十日	七月十九日
天洋丸	七月十九日	七月廿八日
春洋丸	八月十四日	八月廿三日
波斯丸	八月三十日	九月六日
これや丸	九月九日	九月十七日
四比利丸	九月廿六日	十月五日
天洋丸	十月七日	十月十七日
春洋丸	十月廿九日	十一月七日
波斯丸	十一月十五日	十二月二日
これや丸	十一月廿六日	十二月五日
四比利丸	十二月十四日	十二月廿三日
		大正十一年
天洋丸	十二月廿五日	一月三日
春洋丸	一月十五日	一月廿四日
波斯丸	二月四日	二月十一日

●鑵詰トメトの中毒

▲四人が生命危篤

桑港大博紀念館にて一昨夜催されたる宗教會合にサンノゼより出席中なりし二名の婦人及び二名の女兒は突然苦悶し始めたれば人々は大いに驚き附近中央收容病院に送り應急手當を受けしめたる處サンノゼ出發の前に食したる鑵詰トメトの毒に中られたるものと判明數時間に渉る苦悶の後漸く生命のみは何れも取り留むるを得たりと

●新大統領來加か

▲來春一月の豫定と

灣東王府に來てゐる新大統領ハーデング氏の令姪ビッダス夫人に宛て新大統領より達した書面に依るとて稱して昨日同夫人から報告する處に依ると新大統領は來月を期して加州に來るとのことで加州では日本人問題をも調査する筈だと

●加州議會の開會期

▲一月三日の豫定

加州第四十四議會は一月三日より開會の豫定にて州政府當局は何れも其の準備に多忙を極め居れるが前議會郎ち一九一九年度の議會議案は合計二千五十一個又四年以前の一九一七年度議會には二千八百八十六個にして内州議會を通過せる議案は前議會に八百五十個前々議會に千三十六個ありたりといふ

◎酒問答＝巨魁審問第二日

＝證人臺に坐た被害婦人の蒼い顏

◇……無數に飛ばす被告側辯護士の執拗な質問……◇

◆彼の運命＝今明日中に決定

桑港凌辱事件の兇惡團巨魁マッフキーの裁判は昨日も引き續き午前十時から上級裁判所フード判事法廷で開かれた、警察本署の二階から三階に上る階段の中途に雲突く許りの

▼查公が　兩人威儀を正して許可證を有つてゐない傍聽希望の彌次馬を追ひ歸へしてゐる、そこを潛つて第三階に上るとホールは嚴めしい制服姿の查公の群れが一人の部長の指揮下に警戒してゐる、法廷の扉を排して中に入ると今や被告辯護士の被害者尋問の幕をあつて

▼正面の　判事席の右に座つた被害婦人モンガモリー孃の美しい顏が折柄陰鬱な雨空から差し込む光を法廷左方の天井迄届いた廣い窓から受けて眞つ蒼に照らされてゐる、赤茶のビロード帽子に藍色のドレス、膝の處で重ねた兩手の指は辛辣な被告側辯護士の執拗い

▼尋問の　度びに神經を湧き立たせて戰く、左方窓下に二列を並んだ陪審官十二名、内二人は婦人である、前方被告席には被告マッフキーの右に辯護士スパダノリ氏、左に妻と母親、檢事席にはブラデー檢事自ら出馬してゐる、時は午前十一時、今や興味ある

▼酒問答　が被害者と辯護士との間に交はされてゐる『酒を飲んだか』『一杯の酒で醉ふか』『ウヰスキーとシエリワインとの區別がつくか』『支那ジンを飲んだか』とそれからそれへと無數に續くに對しモンガモリー孃は『イエス』とか『ノー』とかで簡單に答へてゐる

▼被告側　では本裁判には何れにしても勝算が無い事は覺悟してゐるので只一部分の點丈けでも有利な地歩を占めやうと躍起となり質問を浴せるが被害者側には檢事と判事が時々言葉を挾んでモンガモリー孃を援けてゐる、昨日の審問は午後遲く迄續けられたが

▼法廷は　本事件を一瀉千里の勢ひで片附けて了ふ豫定だから巨魁マッフキーの運命も今明日中に決定を見るだらうとの事である（一記者）

●家賃騰貴問題

▲州で監督する議案

家賃騰貴問題に關し其後依然として下落の模樣見わざる爲め一般借家人側にて困却しつゝあるが王府市評價官ウキリアムス氏は家賃問題を州政府の手に移し州官憲に依り家賃を公定せしむ可き議案を來春の州會に提出すべき旨計畫し近く之れが實行運動に着手す可しと

■■■■●結婚者多し　桑港市結婚許可證發給局の報告に依ると十二月の月に入つて結婚希望の者多く此の勢ひで行くと昨年の十二月を凌駕し昨日迄の處にて既に二百八十五組に達し昨年同期迄の二百五十五組に比すると三十組の増加となると

●能登呂出港

重油積込みて當地に碇船中なりし海軍特務艦能登呂は愈々今朝日本に向けて歸航すべしと

■■■■●豐岡丸寄港　日本郵船會社歐洲航路貨物船豐岡丸は日本に歸航途中昨日紐育より當地に寄港したり

◆最後の五十弗

▲振つた記者の實驗

近頃電車の中で老人や婦人に席を讓る美風が次第に廢れて來たが昨日市俄古の或る新聞記者が年寄つた婦人に大きな籠を持たして件ひ市中の高架鐵道や市街電車を四時間の長い間乘り廻したが誰一人席を讓る者がなく最後にやうやく一人の男が感心に立つたウイリアム・リレイといふ保險屋さんで記者は早速用意の禮金五十弗を贈呈に及んだと（市俄古發電）

■■■■●横田氏の退院　東瀛支店貨物課長横田九十九氏は數日前切開手術の爲めフエヤモント病院に入院中の處手術後の經過良好にて昨日退院自宅療養中の由

■■■■●定量不足ブレッド　昨日櫻府に於て六軒のベーカリイは規定の十六オンス或ひは二十四オンス以下のブレッドを製造販賣せる廉に依り其筋の告發する處となれりと

■■■■●雨は未だ降る　昨夕桑港測候所の報告に依れば昨曉以來華州央州及び北加一帶に降雨あり海岸の警戒未だ解かれざ雨雲は漸次東方に移動しつゝあるも今朝にかけ猶は數度の降雨ありと

■■■■●川口は自動車法違反　サンテオ警察よりの通知により桑港ガーフ街にて一時拘引されたる川口勘九郎の罪狀は自動車を無燈の儘操縱して同地方面を通過し來れるが爲めなりと

■■■■●青年團臨時總會　日本人青年團にては來る十九日午後七時より當市ラグナ街一六〇二同會館に於て臨時總會を開催すべしと

■■■■●卒業祝賀會　明十九日午後八時半より桑港パイン街の學生會に於てポリテクニック・ハイスクール佐野讓コンマーシャル・ハイスクール中村智惠吉兩君の卒業祝賀會を開催す可しと

■■■■●藤本敎師送別會　桑港下町協和學園にては從來同學園幼稚生を午前中敎へ居たりし藤本小樂子に對し一昨夜送別會を催したるが盛會なりしと

■■■■●砂糖小賣十一仙　御値八仙迄下落せる砂糖は昨日より小賣値一封度十一仙にて賣出さると

■■■■●賣地申込み　加州シスキュー郡に接近せるオレゴン州クラマスに於て七千五百英町の土地を一英町六十弗價格に賣りたしと

（新刊紹介）

■英字新聞讀破自在（赤司繁太郎著）英字新聞に現はれる普通三千字を解説し新聞用語を擧げ時文を讀むに參考を親切に說きたるもの有益なる著書である

■イングリッシ・エコー（アライアン著）英語會話の敎科書、參考書として絕好のきたるもの

■片手美人（淚香譯）佛蘭西小說の意譯綿密流暢達者なる筆致は定評ある通り

■大正十年の日記類　家庭日記、小學生日記、英文當用日記、ポケット・デーリー等九種類何れも淸楚にして實用的のもの五車堂に到着（五車堂寄贈）

●エビスホテルと日本行乘船券　一、二、三等共何時にても御申込に應ぞ迎妻子御出迎への御方には特に親切丁寧に御世話致します室内湯水設備あります　1645 Buchanan St., S. F. Calif.

●桑港麴の元祖　其名嘖々たる藤本商會の「正」麴は一大擴張を計ると同時に品質及包裝に改良を加へ且つ安價多賣主義を以て一般顧客の利益を計るべし　Fujimoto Co. 1014 Stockton St., S. F.

本年は糯米安價に付從つて廉價にて大勉强調進可仕候間多少に係らず御注文の程願上候

正月餅

桑港ポスト街一六九九

御菓子司　松屋

電話ウエスト五三六六

小幡裁縫學校　入學隨時

桑港ポスト街一八一〇　小幡繁子

金門貸自働車　緒野

ポスト街一六五二　電フイルモア二五五七

英語個人敎授

ダリー街一四〇八　ミセスカイル

ちん餅

例年の通り大勉强可仕候間多少に不拘御注文願上候

合同　大阪屋　駿河屋　菓子店

桑港ポスト街一六七〇

電話ウエスト五〇七〇

須市支店

東ワシントン街三〇

開醫院

◎内科、外科

◎産科、婦人科

◎小兒科（一般注射治療）

桑港ウエブスター街一千五百四十八

（ポスト街ゲリーの間）

藤森醫院

ドクトル　メヂシネ　藤森直和

電話フキルモア五六四

新開業

大賣出

今般私事ます金商店の跡にて果物雜貨商開業仕候間極力大勉强可仕候に付何卒御用命の程偏に奉祈候

ポスト街一七九九

電話ウエスト四二七一

大庭商店

實用英語學校（千九百三年創立）

Misses Coleman & Lloyd.

2906 Bush St. Near Lyon St., S. F.

新開業

小荷物運搬（迅速確實）其他御用達

ポスト街一七一二

日の出用達社

電話フキルモア一〇四五

文具品並に玩具

クリスマス御用品

フイルモア街一八五五

LATHER'S TOYS

1855 Fillmore St., S. F.

シンガーミシン

月賦販賣◎古手と交換◎裁縫無料敎授

御一報次第見本持參

桑港ブキャナン二三三一

電フキルモア一九〇七

みとま

原田寫眞館

桑港フイルモア街一六三三

電話ウエスト六三六〇

（ポストとゲリーの間）

森山寫眞館

桑港サター街一七九七

電話ウエスト六一五一

正月もち

本年は特別廉價にて調進仕候

桑港ポスト街一七三二

電話ウエスト六八三一

花月堂

浪花節東雲事務所

大浪一行

桑港スクトン街一〇一九

加州館

（電話サタ一八六六七）

クリスマス進物用新茶

銘柄	半斤	一斤
相馬山	一弗七十五仙	一弗五十仙
千代の友	一弗七十五仙	九十仙
寒梅	二弗	一弗
花の香	二弗	一弗
最上	二弗五十仙	一弗廿五仙
大走新茶	三弗	一弗五十仙
相馬自園	三弗五十仙	一弗七十五仙
富士自園	三弗	一弗七十五仙
玉露	三弗	
好老松	四弗	二弗
花の白	五弗	二弗五十仙
玉冠	六弗	三弗
千萬の榮	十弗	五弗
	三オンス二弗五十仙	

電話六三一九八

232 E. First Street, Los Angeles.

相馬茶店

?

日記大賣出し

人に日記なきは尚は國に歷史なきが如し長者になるの近道は家計簿の使用に在り

桑港ポスト街一六九八

北米の五車堂

目錄は申越次第進呈す

夜間電話パシフイック八四八一

大河原法律事務所

T. Okawara, Hearst Building San Francisco, Tel. Sutter 3127

タムラ藥舖

TAMURA YAKURO, 1708 Buchanan St., S. F. Cla.

和洋賣藥並に男女用品一切

說明書は御申越次第差上ます

病者の爲

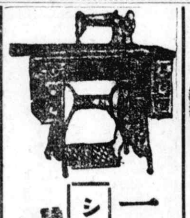
信頼の出來る醫師、血液檢查所及びX光線部の紹介と通譯をなし病者の相談に應ず

桑港ラグナ街一四三二　救世軍

電話ウエスト六〇二五　醫事部

同へムロック街五二五　電話フイルモア六一八

古庄弘



シンガーミシン特價販賣

一日十仙　たやすく買へます

桑港ブキャナン街一七一五

電話ウエスト四〇三七

太田永太郎

十二月一日より三十一日迄　大割引

年末大賣出

桑港ポスト街一七一七

浦川兄弟靴商會

開業御披露の印として特別大勉强を以て注文に應じ候

御正月餅

桑港ポスト街一八二三

電話ウエスト一四二八

春月堂

桑港ゲリー街一五〇九

谷靴店

年末大々的大安賣

十二月十一日より廿四日まで、サイズの賣り殘り其他見切品二割より三割引ルーム用フエルト靴澤山到着贈答品には最も適當す是非御一覽を乞ふ

電話ウエスト七五三七

正月餅

正月用口取羊羹

大勉强調進

日本御土産理想適品は自轉車です最新式自轉車を大安價に差上げます御出桑の節は是非御來店を願ます

桑港ポスト街一八二四　電話ウエスト八三〇六

部谷自轉車商會

新刊書籍澤山到着

書名	種類	價
當用日記	大形	一、五〇仙
同	中形（總皮）	二、二〇仙
同	同　背革	一、四〇仙
同	同　上製	一、二〇仙
同	中長形上製	八五仙
新當用日記	小形上製	九〇仙
同	中形上製	一、二〇仙
家庭日記	同	一、二〇仙
ポケツト日記	同	一、三〇仙
同	函入	一、二〇仙
同	A	一、〇〇仙
同	B	二、〇〇仙
懷中日記	C　上製	六五仙
同	D　並製	四〇仙
英文當用日記		三〇仙
英文懷中日記		一、二〇仙
		八五仙

よろづ商店

1300-4th St., Sacramento, California

日本近信（十一月廿九日）

◆東京市の疑獄愈擴大し
起訴廿六名に及ぶ
犯罪は道路下水の工事に關する贈收賄

東京市の砂利不正事件は端を明治神宮の參宮道路工事不正問題に發して既報の如く高橋根岸の兩巨頭以下の檢擧となり事件は益々火の手を昂めるばかりである二十六日朝の檢事局は前日來松田主任檢事が市役所に出張して有力なる證據書類を押收した一方二十四日以來殆ど不眠不休の猪俣、瀧川、樫田各檢事は金山主席檢事と檢事正室に往來して密議を凝らし居るが既報の警視廳より送られた京橋區東湊町湊河岸薪炭コークス商河喜多虎之助東京府下北豐島郡尾久村土木請負業手島助次郎の三名は二十六日午後三時三十分岡豫審判事の令狀に依り贈賄罪として東京監獄に收監された又東京市外千駄ケ谷町原宿東洋道路工業株式會社專務取締役本田新淸氏方家宅搜索の結果二十六日早朝本田專務も檢事局に召喚し猪俣檢事の嚴重なる取調の上午後五時贈賄罪として起訴されたが同人は目下肺患のため高橋氏同樣一先收監を猶豫し歸宅を許された、これで起訴執行者廿一名不拘留のまゝ起訴せられたるもの、高橋、石垣今回の本田外二名都合五名である犯罪の內容につき聞く所に依ると前記手島並に秋山は小石川氷川町及び京橋區永代橋附近の道路工事並に京橋區尾張町の下水暗渠工事の請負に對し笠置係長並に白井主任等に贈賄し本田及び河喜多は東洋道路工業會社のタークレー工事に對して前記笠置以下に贈賄したのであると

▲檢擧の手
峻烈を極む
巨魁高橋豫審

東京市疑獄事件に關し廿七日下谷西町市會議員高橋義信氏方に出張した東京地方裁判所の瀧川檢事岡豫審判事一行は午後二時引揚げ後直に高橋氏所有の東洋道路工業會社の權利株一千株の名義人たる鈴村繁治方に赴き家宅搜索をなし書類を押收して引揚げた高橋氏は依然重態と稱して臥床して居るが窪田市社會局長、平岡道路局長が相携へて同家を訪問したのは人目を惹いた

●見ゐ出した
琵琶湖の底
六十八年目の大減水

琵琶湖は最近大減水で瀨田川洗堰下流では底が見ゐ出して來た十九日の瀨田村鳥居川の水位は零下六寸を示し下流の米かし、鹿跳びの奇勝奇岩は露出し徒步で宇治川に出られる、一方湖水交通船は大減水の爲一部の船は西國三十一番の札所長命寺に着け得ず尙今少し減水せば竹生島へも着けられないと云つてゐる堅田の浮御堂も目下丘上に建つてゐる如き有樣で更に琵琶湖疏水は第一の閘門を明け放つた儘で京都との舟航が出來る樣になり目下の所では常水より約三尺から減水でまだ減水するらしく縣民は琵琶湖の底が見ゐると騷いでゐる斯かる減水は六十八年目の出來事で今夏の降雨少かつた爲であると

◎新年文藝論文募集

明春の文壇を飾るべく左の規定により文藝作品及び論文を募集す

▼短篇小說（十四字詰三百行以內）　▼俳句（新年雜詠）　▼短歌　▼川柳　▼一口噺

▼特別課題論文
材料を米國に取り新年に因めるを要す

『青年團の綱領』（十四字詰二百行以內）

『如何に此難局に處すべき乎』（十四字詰二百行以內）

『大農か小農か』（十四字詰二百行以內）

▼賞金及投稿規定
特別課題一等十弗、二等五弗、■小說一等十弗、二等五弗、■短歌、俳句、川柳、一口噺各一等三弗、二等二弗、三等一弗

投稿は各種別紙にて片面に記し字體明瞭なるを要し日米新聞社宛、封筒に應募原稿と記されたし締切は十二月二十日

日米新聞社

●全國代表の
青年七百名
上京して神宮參拜

全國一道三府三十三縣青年團明治神宮參拜代表者並に引率者六百九十七名は悉く築地本願寺境內に集合し廿五日明治神宮拜觀後農商務省その他を參觀し至る

處大歡迎を受けてゐる

●都踊五十年目
美人揃うて上京

陽春京都の都踊は來年は開演五十年に相當するので今から大袈裟な準備にかゝる事になつたが場面も今度は範圍を廣くして御題社頭の曉（畝傍）高津宮（大阪）二條城（京都）御田植と神樂殿（伊勢）同御崎（出雲）の外朝鮮の金剛山、臺灣の臺灣神社、樺太の鈴谷ケ原まで擴ぎ出し大詰を明治神宮として踊が濟むとすぐ出演美人全部揃うて東京へ押かけ明治神宮へ參拜するといふ豪らい事になつた

●逝ける土屋大將

陸軍大將男爵土屋光春氏は鄉里愛知縣岡崎に引籠中の處十六日夜十時腹膜炎にて突然逝去せり同大將は明治五年六月陸軍少尉に任官し累進して同三十五年五月中將に陞りその間近衞步兵第一旅團長第十四第十一第四各師團長に歷補し四十三年八月大將に進み後備役仰付けらる日淸の役には大本營參謀として帷幕に參し日露の役には第十一師團長として出征各地に轉戰し功二級金鵄勳章勳一等旭日大綬章を賜はり同四十年特に華族に列し男爵を授けられたり

木曜日の桑港市場（十二月十七日）
セロリ過剩

▲セロリ弱し　▲栗多量出荷

東部市況引立たざる爲め桑港市場にセロリの出荷夥しく殖ゐたるが祭日を前に控へ乍らも之れが爲め市價上向かず取引澁滯し居れり

▲栗安し　栗一貨車到着したる爲め其市況振はざ感謝祭用としては既に過剩の出荷なり

▲南加野菜　南加地方より汽船アドミラル・シユレー號にて多量野菜出荷されたりトメトー四千クレーツ其他ペツパー胡瓜エダプラント、スコワシ、ビース、ピンズの出荷ありたり

▲ターキ多量　祭日當込みてターキー二萬二千二百八十六封度の多量出荷あり市價弱し

■果物類

▲栗　一封度小十七仙より十九仙大二十仙より廿四仙
▲ウォーナツ　アモンズ一封度二十三仙より二十五仙
▲柿　小箱一弗より一弗半大箱二弗
▲石榴　小箱一弗半より一弗七十五仙大箱二弗より二弗二十五仙
▲ペーヤ　一箱二弗より三弗ウインターニイルス三弗より三弗七十五仙
▲オリーブ　一封度三仙より六仙上等七仙
▲オレンヂ　箱ネーブル二弗半より三弗上等三弗半より四弗二十五仙
▲レモン　二弗二十五より二弗七十五仙上等二弗廿五仙より三弗半
▲グレープフルーツ　一箱二弗より二弗半上等二弗半より三弗
▲蜜柑　小箱二弗より二弗半大箱二弗半より二弗七十五仙
▲アップル　總て四テヤ、ベルフラワー一弗五十仙より二弗四半テヤ一弗廿五仙より一弗六十仙レッド一弗半より二弗四半テヤ一弗二十五仙より一弗五十仙ホワイトペーメンス一弗六十五仙より二弗廿五仙ニユタンピピン三半テヤ二弗より二弗二十五仙四テヤ一弗七十五仙より二弗四半テヤ一弗半より一弗七十五仙レデアップル一箱三弗より三弗半小箱二弗より二弗半
▲クランベリ　オレゴン一箱五弗半より六弗一樽廿四弗より二十五弗

■野菜類

▲カサバ　一クレート七十五仙より一弗半
▲シトロンメロン　一クレート七十五仙
▲スクワシ　ラグボックス、サンマー一箱一弗より一弗半クリーム七十五仙より一弗
▲南瓜　一袋一弗より一弗二十五仙
▲ポテト　一袋河下一弗六十仙より一弗七十五仙オレゴンバンバーク二弗より二弗廿五仙サヲナス三弗より三弗五十仙
▲甘藷　一封度四仙四分一より四仙半上等四仙四分三
▲ペッパー　一封度ベル五仙より六仙四仙半より六仙
▲胡瓜　ラグボックス二弗より二弗半
▲エグプラント　南加一封度七仙—九仙
▲キャロット　一袋一弗廿五仙—一弗半
▲ビーツ・ターニップス　一袋一弗より一弗二十五仙上等一弗半
▲ガーリック　一封度七仙より八仙
▲トメト　クレート二弗より二弗七十五仙
▲アニオン　一袋黃七十五仙より八十五仙白一弗半より一弗七十五仙ブラウン九十仙より一弗二十五仙
▲ネギ　一箱一弗廿五仙より一弗半
▲ピース　一パウンド大十二仙より十七仙小十仙より十二仙半
▲ピンズ　ストリングピンズ一パウンド十五仙より二十仙ライマピンズ十二仙より十五仙ワキス十五仙より十七仙
▲セロリ　一クレート一弗七十五仙より二弗上等二弗半
▲レタス　一クレート一弗廿五仙より一弗半氷詰一弗七十五仙より二弗廿五仙
▲カリフラワー　ダズン九十仙より一弗
▲キャベージ　一封一仙
▲スピニチ　一封度四仙より五仙
▲ルバーブ　一箱二弗半より二弗七十五仙
▲マシルーム　一箱二十五仙より五十仙大箱七十五仙
▲ターキー　ドレッスド一封度四十五仙より五十仙上等五十仙より五十二仙生肉四十四仙より四十六仙
▲ベメー　五十仙
▲鷄卵　上等六十九仙エキストラフレッシ六十四仙アンダサイズ六十二仙

花の繪島　青々園
（一〇二）

團十郎の前で一切を懺悔した新五郎は更に斯ういつた

『だが、それはお前を何うかしようといふ外に、たつう澄ました繪島さまに仕返しをして遣らうといふ腹が一杯だつたのだ、だから淸五郎の上さんが繪島樣と昔の朋輩だつたといふのを幸ひに、廻し者に座敷へ出したのも皆己の差金だが、兄弟同樣に心易くしてゐるお前に假令すこしの間でも惡意を含んだ己の罪を發してくれ、ううして生島淸五郎は見掛けほどにも無い胸の狹い男だと笑つて御くれ』

團十郎は其れをじつと聽いて居た

『元貴が其んな氣まづい心で居なさらうとは始めて知つたが、能く打明けて下すつた、勿論己らの方では大恩のある兄貴を押し退けるの何のつて水くさい根性は微塵もないのだから、此の後も兄貴に氣まづい事があつたら、何んでも己らに打ちまけて御くんなせゑ』

『其う當つて碎けるところは、流石に成田屋だ、ちやあ此の事は水に流すとした所で、繪島さまの事を諦めるに何うしたら宜いといふ事は、己にや返事が出來かねる』

『兄貴にも其の工夫がつかないとすれば、一層のこと繪島樣に打つかつて、當人からお斷りをくへば諦められるだらう』

『いや、其れはよした方がよからう、なるほど繪島さまがウンと御言ひなさらなけりや其れ迄だがもし向ふでもお前に氣があつて間違ひになつたら何うするつもりだ、お前も今いつた通りお上の掟が恐ろしいだらう、それには己の弟の大吉が好い手本だ、七年前に尾張樣の奧御殿へ長持で通つた事が露はれて、牢舍になつた上過料で事は濟んだものゝ、大吉は其れが元になつてとう〳〵氣がふれて死んでしまつた、己が大吉なら其のやうなヘマな事をしないつもりだが、若い者の向ふ見ずと來ては堪らない、そうしてお前だつて其處へ行けば矢强大吉と同じだが、市川團十郎が色事で牢舍になつたといはれては、名前が大きいだけに世間の評判にもなれば、第一死んだ父さんや、生殘つて居るお袋に親不孝だ』

『兄貴にいはれるまでもない、己らも其の事を考へて見たのだが、戀をするといふ事は人間當り前で、決して惡い事では無い筈だ、うれなのに同じ戀でも相手が身分違ひだと行けないといふ、世間の掟が己らには分らない』

『理窟をいつたら何うだか知らないが、然しうれが世間の掟であつて見れば仕方[illegible]繪島さまの事は諦[illegible]

『でも、兄貴は何[illegible]られるとは敎へてく[illegible]めようと思つても[illegible]つたら己らは何う[illegible]

『なにさ、自分で[illegible]つて諦められない[illegible]かれ前はうぶだか[illegible]時が經つうちには[illegible]りを刻晌に思ひつ[illegible]乾度忘れるやうに[illegible]

『己らは、何う[illegible]思ひが增すやうな[illegible]ない、遠ざかれば[illegible]

團十郎の其う云[illegible]郎が憐むやうに覗[illegible]では鳴物の音が聽[illegible]暮あくのにもう[illegible]ある

東京 大阪 朝日　取次 桑港 知新堂　37 Beideman St., S.F.

始めに言ひ終りに言ふ
Carrie G. Harrel, 319 Nicholson St., Norfolk, Va., より來信にはフオレーのキンネターは効顯あり私は始めにも最後にも言ふと先週思慮ある婦人は咳風邪を治す爲に數千瓶を購求せりフオレーのキンネターは咽喉の痛痰を留むるに効能あり（十二の二）

◎註文せよ◎
大正九年度の新種子物を
代價表は御申越次第無代進呈
種子物原產地加州ホリスター
山中丈吉（園主）
Hollister Seed Co.
Rt. 2 Box 112
Hollister, Calif. U. S. A.

種子物は（ナンデモ）
日本サヤエンドー
加州サンノゼ
北澤兄弟商會
197 Jackson St., San Jose, Cal.

MAIL'S SHOE STORE
特に日本人に適ふ樣造りスタイルは望みにより各種
他店よりも廉價（夜間營業）
桑港フィルモア街一七〇一—一七〇三（ポスト街角）
メール靴店

御禮廣告
故うし儀葬送の際は御遠路態々御會葬成下且香奠を添ふし難有奉深謝候匆々參堂御禮申上可筈の處乍略儀以紙上御禮申上候
十二月十六日　大正區
夫　廣島春吉
長男　秀吉
次男　靖嘉
義兄　近澤安
義弟　廣島米吉
親戚　近澤穎雄　廣島福治　廣島德治
友人　山北政子　新藤良市　沖川玉一　國澤德猪　櫻本良助　中野次郎吉　竹岡熊吉　光吉佐善　武井幾次　長尾勝之助　國澤格　近澤淸馬　竹崎犀吉

米國一流のモデルを集めたる
▲美術裸體寫眞▼
▼大形—九吋に七吋
六百種
郵稅共一枚一弗六枚五弗
一弗紙幣御郵送の方には
右美術寫眞一枚及小形見本印刷進呈
（通信は日本文又は英文）
ORIENTAL ART STUDIO
G. P. O. Box 312
New York City

フランクリン
六六
賃金低廉　迅速叮寧　應御用命

十二月廿四日出帆
ナイル號
三等船室餘裕有之候間御乘船御希望の方は大至急御申込を乞ふ
『春洋丸十二月二十九日出帆』三等既に滿員を告げ、出國手續變更の爲め從來の二倍の手數と時間を要し候間乘船の方は遲くも本船出帆日一週間前に御出桑相成度候

井本旅館　サウスパーク一〇四　電話ドグラス五九三
防長旅館　サウスパーク一〇三　サター八五〇一
日本ホテル　フグナ街一五五一　ウエスト三二一五
日米ホテル　アッシュ街三〇八　フイルモア四四五
北米旅館　アキヤナン一五三〇　ウエスト三二二二
田村旅館　パシフイック街四〇〇　ガーフイルド三二六六
近江屋旅館　サウスパーク一〇六　ドグラス四八九八
加州ホテル　スタクトン一〇九　ダグラス三一一三
名古屋ホテル　ポスト街一七五九　フイルモア三三三
南海屋　ゲーリー街一五二三　ウエスト六九三九
熊本屋　サウスパーク七〇　カーニー二七二九
山口屋　ジヤクソン街七〇七　カーニー二四八七
福岡屋　サウスパーク七七　カーニー二七一三
富士ホテル玉城經營　グラント街五二二　カーニー一三〇五
永本旅館　サウスパーク二三　サター八六六一
安藝ホテル　ポスト街一六五一　ウエスト六二一一
紀の國屋　アキヤナン一六二三　ウエスト五五四六
ミカドホテル　ポスト街一七三四　ウエスト一九九一
エビスホテル　アキヤナン一六二一　フイルモア九七三
廣島屋　ポスト街一六三二　ウエスト九四〇八

桑港旅館組合船客送迎事務所
406 Pacific St., S. F.　電話ドグラス三一七九四

和洋食料品雜貨商
株式會社 新亞細亞商會
桑港ポスト街一六五九　電話フイルモア二七九三

加州公認
株式會社 保證投資
有價證券賣買
確實有利現物賣出
▲日本政府發行國庫債券五分利　▲鐵道債券五分利千圓券
▲日本興業銀行債券六分利附千圓券
▲日本政府發行英貨公債四分半利第一、第二　百磅券
▲日本政府發行英貨公債第二四分利　百磅券
右英貨公債は皆バークレー第一ナショナル銀行保證附
公債（値段及說明書進呈）
Guaranty Investment Co. (Inc.)
309 First National Bank Bldg.
P. O. Box 74 Berkeley, Calif.
Tel. Berkeley, 2377

HOTEL FUJI
423 Maynard Ave.
Seattle Wash.
妻君御呼寄の際は前以て御通知被下候へば上陸に關し必要なる事項早速御返事可申上候
シヤトル市メーナード街四二三
藤井旅館
煉瓦造支館二棟タコマ及キャマ旅館各二百室最新設

男子用クリスマス品
シャツ、帽子
ネクタイ、手袋
スエター、靴下
パヂャマ、浴衣
マフラー、下着
ハンカチーフス
謹んでクリスマスの御挨拶を述べ日本人諸君の御引立を乞ふ
桑港フィルモア街一四〇五（エリス近く）
ガードナー商店
W. T. GARDNER CO.
1405 Fillmore St., S. F.

永久記念となる
珍らしい贈答品
クリスマス年末用の御贈物として
何よりも珍らしく
御家庭には是非必要で
火事の時實際の役に立ち
記念品としても永久保存し得らるゝ輕便
無類の
ウエルドン自動消火器を御勸め致します

各國專賣特許
各地到る處に特約販賣店あり
新特約店
モデスト　鈴野勘四郎
サンタローサ　ジョージ星出
桑港　直接本店へ電話ウエスト四二七一
是非實物御一覽の上御買入を望む
東洋及米國一手販賣元
桑港ウエブスター街一五六二
三德商會

農家の準備の期節になりました
第一は作物の選定であります
第二は耕地の選定であります
此時附帶して熟考すべきは
肥料の選定であります
是に對し懇切に御相談に應じ得るは肥料專門商の開祖小林商會であります
THE PACIFIC GUANO & FERTILIZER CO. SAN FRANCISCO, CAL.
專門肥料商
H. Kobayashi
小林商會
1449 Buchanan St., San Francisco, Calif.

FOR AMITY BETWEEN
AMERICANS AND JAPANESE

The Japanese American News

ENGLISH SUPPLEMENT
SATURDAY, DECEMBER 18, 1920 No. 7581

Concerning Judge Lynch.

The following is a free translation of an editorial in Japanese published in this newspaper last Saturday:

IT WAS A GENUINE sensation when the public learned that three of the San Francisco gangsters who had made attacks on girls, one of them the confessed slayer of three officers, had been lynched by a mob at Santa Rosa.

In the light of their criminal records the gangsters were due extreme punishment. Many recent cases had been reported of gang attacks upon girls. These attacks had been attributed to a gang of boxers and their ilk. The San Francisco Police Department had been making strenuous efforts to clean up the city and do away with the unrest of the general public.

The general public, for its part, hated the gangsters in no half-hearted manner. This fostered the mob spirit and made a lynching bee popular.

Now, lynching is not countenanced by a civilized world. Everyone regrets that the history of the United States should have been soiled by such violence. The law provides that executions shall only be effected by certain judicial organs; the general public is not permitted to participate.

Yet, in this country, the public frequently takes the law into its own hands. It makes one question if there is not something in the American makeup which makes lynching a necessity.

Americans express their feelings frankly and do not like to be suppressed. For instance, when news of the signing of the armistice reached this country, everyone, old and young, joined in a spontaneous celebration, leaving all business, thronging the streets, without waiting for authoritative proclamation. They paraded the thoroughfares, made all manner of noises.

When great crowds gather there is usually a demonstration of some sort. A sort of crowd psychology—or mob psychology, if you will—appears to control all persons as though an electric current were passing through their bodies. Circumstances betray crowds into mobs; mobs sometimes lynch.

In this process there is one point to be observed particularly. This intensity of the American mob is not an expression of blind, unreasoning feeling. At the bottom there is reasoning, a rational understanding, which aims always at human betterment and progress. This rationalism is strongly colored by sentiment. Sometimes, in the instance of a mob, it is derailed—and then comes the lynching spirit.

When this is manifest in a political organization we find that a tendency at mutual adjustment and co-operation maintains self-government. A democracy naturally recognizes the finer judgments of the people as the ultimate power. This will of the people, rationally expressed, is called the ballot. Irrationally expressed, it is a mob—sometimes a lynching mob.

In the United States, with such a political organization and with such social phenomena, lynchings sometimes are unavoidable, even though it is regrettable and a blot on the glorious history of the country, lynch law being a reminiscence of man's barbarian days. Needless to say, lynchings, for the moment, destroy the social wellbeing of the community.

But it is not for us to criticize Americans because there have been lynchings in America. Before we blame the American people we must have a sympathetic understanding of American psychology—although we do not by any means approve of lynching.

Report of the Secretary of Labor.

Following is a free translation of an editorial in Japanese published in The Japanese American News last Thursday:

ACCORDING TO A REPORT of Secretary of Labor Wilson, the sum total of all immigrants entering this country during the year 1920 is 633,371. There were 11,795 refused admittance. Emigrants from the United States numbered 428,062. This gives the United States a net increase of 193,514 in population by immigration.

Of these new residents there were 16,174 Japanese. The number of Japanese leaving this country during the year was 15,653. In other words, the net increase in Japanese population was 521.

The Japanophobes of California are making a tremendous effort to show that the Japanese population of this State is increasing rapidly. They charge that the Gentlemen's Agreement is not being kept by the Japanese government, but that, on the contrary, the government of Japan has been sending its subjects to the United States in spite of the agreement.

These Japanophobes have continually stirred up all Californians until at last they have succeeded in having passed the new anti-Japanese law. But, far from satisfied with this, they have begun a campaign of "education" of the federal government; and, using all sorts of propaganda, are striving to weld the Western States into a federation hostile to the Japanese.

It is unfortunate for them that the arguments used about the increase of Japanese population in this State are not based on fact. The facts show how far wrong they are.

When Governor William D. Stephens asked Secretary of State Bainbridge Colby to support the anti-Japanese movement, he made use of a report of State Controller Chambers. In that report it was stated there are 87,000 Japanese in this State.

But Mr. McClatchy, in his Sacramento Bee, puts the Japanese population of California even higher than that, saying it is 100,000. The 1920 federal census, however, shows the Japanese population of this State is little more than 70,000. Furthermore, the report of Secretary of Labor Wilson makes it clear that the Japanese population this year has increased by only 521 persons.

When we compare these figures with the population figures of other aliens we find that against the 521 Japanese added to the population of this country this year there is a total of 193,514 other aliens. This indicates that the Japanese problem, as one of immigration, is almost nil. At the same time it shows that the statistics of the anti-Japanese party in California are unreliable, exaggerated and baseless.

As for the Gentlemen's Agreement, we refrain from a detailed discussion on this occasion, it being frequently reported that the agreement is to be amended to a certain extent. We are bound to say, however, that the Japanese government has been keeping the agreement so rigidly that it has been accused of a too strict observance. Furthermore, the Japanese government voluntarily put an end to the practice of sending picture brides to this country.

Among the 16,174 Japanese admitted into the United States this year, the large majority were readmissions and with them came their wives and children. In addition there were many travelers, merchants, students and the like. As to the 15,653 Japanese who returned during the year to the homeland, many, of course, returned temporarily and expect to come back to the United States next spring.

Many of the 521 Japanese added to the population of this country are wives and children, called here by residents. This number will be greatly decreased next year.

If anyone will investigate carefully the Japanese residents of California he will find the number of middle-aged Japanese is decreasing yearly and that only by reason of the increase in the number of wives and children is the population increased. In other words, the number of single men and laborers is decreasing, while men with homes and children are on the increase. This contributes to the social health of the State. It is the result of strict observance on the part of the Japanese government of the Gentlemen's Agreement in allowing no new immigrants to leave for this country.

We earnestly hope that all Californians will read in the report of Secretary Wilson the well established fact that the so-called statistical arguments of the Japanophobes are baseless. We hope also that Californians will cease to dream these nightmares, together with the people of all Western States, and that a realization of the true situation will weaken the anti-Japanese movement.

The "education" of the federal government to the Japanese "menace" in California, as well as in all other Western States, would not then be necessary.

In Reply to Mr. Kahn.

REPRESENTATIVE JULIUS KAHN of California, said an editorial in Japanese in this newspaper last Wednesday, in a recent speech referred to demonstrations of Japanese students in Tokyo regarding the Japanese problems in America. He greatly exaggerated the anti-American movement in Japan. Also, he said something on the score of military and naval preparedness.

The demonstration to which he referred was made by a group of students. But why doesn't Mr. Kahn realize the fact that in the United States statesmen in the national tribune have made many sensational speeches in this regard? We hope Mr. Kahn will take ample time to think of his own country's sentiments before he makes charges concerning a group of Japanese students who have no political power.

FOOTPRINTS IN THE SNOW.

THE SOLDIER plodding out of the great white wastes of Siberia represents the Japanese expeditionary force in that country, returning to Japan.

Close on the heels of the retreating army, following the scent of the footprints in the snow, is a great bear.

The bear is Bolshevism.

Regarding Mr. Borah.

SENATOR BORAH OF IDAHO, said The Japanese American News in Japanese last Wednesday, has presented a resolution in the Senate for a 50 per cent reduction of the naval program. We feel with Senator Borah that England, the United States and Japan, somehow or other, must restrict their armament, otherwise it will prove a future menace.

But, first of all, the United States, which does not feel it is necessary to the existence of the Nation to maintain such great armament, ought to start the ball rolling by reducing her own. Japan would reduce her armament on condition that England and the United States did likewise.

At all events, Senator Borah's resolution is timely.

TREASON OF MITSUHIDE

FROM THE YEHON TAIKO-KI.

II.

SADLY MITSUHIDE returned home with his son. Misao, his wife, and Shioden, his chief retainer, greeted him at the gate. Misao was astonished when she saw the bruises on her husband's forehead.

"Why, my dear," she exclaimed, "how pale you look! How came you by that ugly wound?"

Wrapped in thought, Mitsuhide made no reply. Jujiro's mind also was preoccupied, but he raised his head and gave an account of what had happened. Misao was overcome with grief and her thoughts instantly were focused upon the future of her husband.

But passivity was beyond the fiery Shioden. He said nothing, but rushed out of the house, flushed with frenzy. Misao called after him:

"Whither goest thou, Shioden? What are you going to do?"

"An ancient sage says," he replied, "'When one's master is insulted, one fights to the death.' I will break into the castle even if I pay for it with my life. I shall have the head of Rammaru, who insulted my lord."

Misao ran after him and caught him by the sleeve.

"Your anger," she said, is righteous, "but if you act rashly you may bring trouble upon your lord and disgrace upon our house. Think twice before acting hastily."

Shioden, however, refused to listen and tried to shake her off.

"Stay!" Mitsuhide cried, rousing out of his reverie. "You take too much upon yourself. I gave you no instructions to make such an uproar."

"Why do you stop me, my lord?" Shioden cried. "Even if you had committed some fault, it would be an unpardonable wrong for you, a daimio, governing the provinces of Tamba and Omi, to be beaten. My hatred of Rammaru is without bounds. How can I help wish to take vengeance upon him?" Either I shall kill Rammaru or myself. Don't stop me, my lord!"

"You are mistaken, Shioden," Mitsuhide said, looking his retainer full in the face. "Rammaru beat me at my lord's order; therefore the blame is not his. As you know well enough, Lord Nobunaga is short of temper and capricious. First he showers favors upon his retainers, then, mayhap, if it is his humor, he beats them. You must not forget that a retainer has no right to resent any command of his lord, even if he demand his life. Let that calm you, Shioden."

No reply to these words could the hot-tempered warrior make. Instead he set his teeth and clenched his fists and remained silent.

Of a sudden there arrived a messenger from Lord Nobunaga. Mitsuhide and Shioden met him at the gate with all due reverence and begged him to be seated.

"Hashiba Hideyoshi," he said, "proceeded some time ago to the Central Provinces, and has been engaged in the subjugation of the Mori tribe. His Excellency, Lord Nobunaga, therefore, commands that you, Mitsuhide, shall hasten thither to assist Hideyoshi and fight under him to the best of your ability. If your achievement should prove meritorious, the provinces of Izumo and Iwami are to be conferred upon you. Meanwhile, you shall be deprived of the fiefs of Omi and Tamba. This is the command of Lord Nobunaga."

Dead silence. In amazement Mitsuhide and Shioden exchanged glances. Then Mitsuhide answered respectfully that he accepted the command and the commission. The messenger departed.

Folding his arms, Mitsuhide stood for several minutes in deep thought. Shioden could scarcely contain himself for his anger.

"What thinks my lord of this command?" the retainer demanded, his black hair bristling with wrath. "It is plain enough that the merciless Nobunaga intends to destroy you. This is no time to be making fine speeches about loyalty. Your lordship must raise the standard of chastisement against this tyrant, conquer all Japan and leave an undying fame to all future generations. That is my wish and my advice."

Hearing these words, Misao approached her husband and with tears rolling down her cheeks remonstrated with him:

"Listen not, my lord, to this treasonable counsel! The faithful Shioden seems at first to be reasonable. But the very thought of killing Lord Nobunaga and usurping the Empire is abhorrent and disgusting! I implore you, my dearest husband, do not bring disgrace upon our aged mother and beloved children! Entertain no such horrible design. Rather take a safer, saner course, one that will secure the good reputation of our honored house."

Mitsuhide remained silent. In a few minutes, however, he began to declaim in loud tones, with an expression of firm determination upon his face:

"Blind calumny may raise a cry
Of witless traitor—What care I?
I little reck of slander's breath
When my own will foredooms my death."

Mitsuhide had been poisoned by the counsel of his hot-headed retainer. He had determined to hoist the banner of treason. Misao, understanding the significance of the poem, burst into bitter tears and stood stupefied with grief. On the other hand, dancing for joy, Shioden cried:

"Long live the Akechi family!"

(TO BE CONTINUED.)

ORIENTAL IMMIGRANTS.

COMMON INTERESTS of first rate importance, that are involved in the amicable relations between America and Japan, says the North China Standard, are many and becoming more and more closely interwoven in the structure of their national existence. Commercial transactions undertaken between the two countries alone are of no mean magnitude, the aggregate of their annual trade reaching the one billion dollar mark.

America is the chief consumer of Japan's staple products—silk, tea and fancy goods—while Japan occupies the third place in the rank of purchasers of American wares. Financially, Tokyo has begun to be an important factor in making New York the center of international finance, Japan's deposits in American banks and other investments amounting to about $250,000,000. America and Japan are important members of the consortium for loans to China, which has for its aim the economic rehabilitation of that huge yet undeveloped, but potentially immensely rich country.

In the unfolding of hidden resources in other regions of Asia, the co-operation of America and Japan is also indispensable. Above all, in international affairs, it is of the most vital consequence to the world whether in the working of its destiny they join hands or part their ways. Furthermore, there are about 120,000 Japanese who are now domiciled in the United States and participating in many of its activities. It is, then, natural that out of such a close relationship there will arise time and again many difficult and delicate problems which will require most considerate handling by the statesmen of both countries.

THE CALIFORNIA PROBLEM.

The so-called "Japanese question in California" is one of these problems. It is, indeed, a serious problem, but it should never be permitted to unbalance the mental equilibrium of either an American or a Japanese as to lose the comprehensive view of the whole aspect of their relationship. It is a common trait of all nations that, when a piquant problem arises, the whole attention is drawn to it to the abeyance of all other important considerations. It is, then, the charge of leaders of public opinion to warn the peoples on the opposite shores of the Pacific to keep mental calmness at this moment and see things in the proper perspective, avoiding the blunder of eclipsing the whole by blind absorption in a part.

The Japanese-California problem is, in fact, not the immigration question, but the question of treatment of the Japanese already admitted into the United States. The former question was settled by the "gentlemen's agreement" by which Japan took upon herself the charge of restricting Japanese immigration, and, if any readjustment is deemed necessary, it can be accomplished upon that basis.

Without discussing further the Japanese problem in California, so far as Asiatic immigration is concerned, it is but fair to say that America is not alone in its opposition to the unrestricted entrance of Oriental immigrants. Restrictive measures have been adopted by some of the British colonies, and the following are some of the important points in the provisions of Australia and Canada:

Australia furnishes an instance of perhaps the most flagrant case of Asiatic exclusion. With a vast land yet almost untouched (3,079,332 square miles, or 50,000 square miles larger than the total area of the United States) and a population so small—being five million in 1918—she urgently needs a great number of immigrants for the development of her natural resources. Accordingly, she has done and is doing almost everything in order to attract as many immigrants as possible. Up to 1918 various states of Australia extended financial assistance and other privileges to 1,698,894 immigrants. The Department of Home and Territories has spared no effort to induce immigrants to emigrate to Australia, spending vast sums of money every year for advertisements, consisting of literature, posters, exhibitions, films and lectures.

PARADOX IN AUSTRALIA.

With all need of man power and a keen desire to invite immigrants, Australia is—paradoxical as it seems—the most vigorous exclusionist of the Asiatic immigrants. As early as 1861 anti-Chinese riots were started in various colonies, and subsequently measures were adopted restricting the number of immigrants from Asia. No sooner was the Commonwelath of Australia created in 1900, through a federation of the seven colonies, than the first immigration act was enacted aimed at a systematic exclusion of the Orientals.

The act was subsequently revised and enlarged by the Acts of 1905, 1908, 1910 and 1912. As it stands today, it excludes all those immigrants who are either physically, mentally or morally defective, the details of the provision resembling similar parts of the American immigration law. It further excludes all those who fail to pass the dictation test; that is to say, all those who fail to write not less than fifty words of a European language. From this test the European races are exempted, the Orientals alone being required to pass it. No coolie, either Chinese or Japanese, can be expected to pass an examination in a European language. It is evident that the provision is intended to make Asiatic immigration practically impossible. An ex-criminal, an anarchist, an illiterate or whosover he may be, if he is white, is extended a most welcome hand. Industry, intelligence and even sound morality will not obtain admission to Australia if he is a yellow man.

At present there are in Australia 5000 Japanese, only an average of a few hundred Japanese visitors and business men entering there each year. The Chinese in the Commonwealth number 35,000.

CANADA'S SEVERITY.

In restricting Oriental immigration, Canada hardly falls behind the United States in its rigor. Ever since the year 1885 measures have been adopted aimed at the exclusion of Chinese. A head-tax of $100 has been imposed on every Chinese admitted since 1901, which amount has been increased to $500 since 1904. No such tax was ever levied on Japanese immigrants; but, in the year 1908, the Japanese and Canadian governments entered into an agreement by which the former pledged to put a certain limit to the number of Japanese immigrants entering Canada each year. Only last year Canada adopted a literacy test requiring every immigrant to be able to read simple sentences in any language he chooses. The entrance of Hindoos has been made practically impossible by provisions which require them to be in possession of two hundred dollars on landing and to come by direct route without change of ships—a matter which is almost impossible.

Unlike the United States, however, Canada manifests a marked leniency in the treatment of Orientals lawfully admitted. She has extended to them the privilege of naturalization, and of securing homesteads. Even in British Columbia, the stronghold of anti-Oriental agitation, no such discriminatory laws as have been enacted or proposed in California have been introduced in its legislature. There the Japanese and Chinese are permitted to conduct business and cultivate land not only unmolested, but are allowed the enjoyment of all the privileges given to British subjects. They are allowed to purchase land, both urban and rural, and in provinces other than British Columbia they enjoy voting privileges. Only in that state they are not allowed to cast the ballot, although free to become citizens. There are at present 13,800 Japanese, 12,000 Chinese and a few thousand Hindoos in Canada.

WHEN THIS OLD WORLD WAS YOUNG.

(Continued from Last Saturday.)

WHILE THE ROYAL GUARD was stationed about the bamboo cutter's house, on the roof and everywhere imaginable, the night wore away. At the Hour of the Rat—between midnight and two o'clock in the morning—a great glory, surpassing the splendor of the moon and the stars, lighted up the countryside. Then a strange cloud appeared, bearing on it a company of Moonfolk. The cloud descended slowly until it all but touched the ground. The Moonfolk could be seen marshalling for an attack.

There was not a soldier in all the royal guard who did not tremble in his boots when the strange spectacle was beheld. At length some of the troopers summoned up sufficient courage to bend their bows and send forth a shower of arrows; but all their shafts fell far short of the mark.

A canopied car, resplendent with curtains of the finest woolen fabric, rested on the cloud. "Come thou forth, Miyakko Maru!" commanded a voice in the car.

The old bamboo cutter staggered forth in answer to the summons. He was addressed by the chief of the Moonfolk, who spoke to him as "thou fool" and ended with the demand that the Lady Kaguya be surrendered without delay.

The car floated upward from the cloud until it hovered over the roof. Again the mighty voice thundered: "Ho there, Kaguya! How long wouldst thou tarry in this sorry place?"

AN UNSEEN POWER.

The outer door of the storehouse and the inner lattice-work were opened by the unseen power of the Moonfolk. The Lady Kaguya stood revealed with her handmaidens gathered about her.

Before taking her departure the Lady Kaguya spoke kindly to the old bamboo cutter and handed him a scroll bearing these words: "Had I been born in this land, never would I have quitted it until the time came for my father to suffer no sorrow for his child; but now, on the contrary, must I pass beyond the boundaries of this world, though sorely against my will. My silken mantle I leave to thee as a memorial; when the moon lights up the night let my father gaze upon it. Now must mine eyes take their last look about, for I must mount to yonder sky, whence I fain would fall, meteorwise, to earth."

In a coffer the Moonfolk had brought with them a celestial feather robe and a few drops of the elixir of life. One of them said to the Lady Kaguya: "Taste, I pray you, of this elixir, for soiled has your spirit become by the grossness of this filthy world."

Doing as she was bidden, the Lady Kaguya was about to wrap some in the mantle she was leaving behind for the benefit of the old bamboo cutter, when one of the Moonfolk prevented her. At the same time he attempted to throw over her shoulders the celestial robe.

KAGUYA COUNSELS PATIENCE.

"Have patience yet awhile," the Lady Kaguya cried. "Who dons yon robe changes his heart, and yet have I somewhat to say ere I depart." Then she proceeded to write to the Mikado:

"Your Majesty deigned to send a host to protect your servant, but it was not to be, and now is the misery at hand of departing with those who have come to bear me away with them. Not permitted was it to her to serve your Majesty, and despite her will was it that she yielded not obedience to the royal command, and wrung with grief is her heart thereat, and perchance your Majesty may have thought the royal will was not understood, and was opposed by her, and so will she appear to your Majesty lacking in good manners, which she would not your Majesty deemed her to be, and therefore humbly she lays this writing at the royal feet. And now she must don the feather robe and mournfully bid her lord farewell."

This scroll was delivered into the hands of the captain of the host, together with a bamboo joint containing the elixir. The feather robe was thrown over the Lady Kaguya and in a moment all memory of her earthly existence had departed.

Entering the car, the Lady Kaguya was surrounded by the company of Moonfolk, the cloud rapidly rose into the heavens, and soon it was lost to all view.

Without bounds were the sorrows of the old bamboo cutter and the Mikado. Holding a grand council, the latter inquired which was the highest mountain in all the land.

HIGHEST OF THE HIGH.

A councillor answered: "In Suruga stands a mountain, not remote from the capital, that towers highest toward heaven among all the mountains of the land." His Majesty composed the following verses:

"Never more to see her!
Tears of grief overwhelm me,
and as for me,
with the Elixir of Life
what have I to do?"

The scroll written by the Lady Kaguya, together with the elixir, was given to Tsuki no Iwakasa. He was commanded to take these to the summit of the highest mountain in Suruga and there, standing on the highest peak, to burn the scroll and the elixir of life.

In obedience to the royal command, Tsuki no Iwakasa took with him a company of warriors, climbed the mountain and did as he was bidden. From that day to this the mountain has been called Fuji (Fujiyama, "Never Dying") and men say that the smoke of that burning still curls from its high peak to mingle with the clouds of heaven.

(CONTINUED NEXT SATURDAY.)

THE WIND GOD.

By DR. E. A. STURGE.

THE WIND GOD carries on his back
The various winds held in a sack;
The ends in his great fists he grasps.
He gives them exit, fast or slow
And regulates the winds that blow,
From zephyrs to the raging blasts.

By SOSEKI NATSUME.

(Translated by a Japanese Schoolboy.)

I AM somehow appear to be so lonesome as Miss Mike has passed by and the Black of Kurumaya is too low by the taste to associate; but, at same the time, I made quite acquintances among men that somehow my loneliness can be remedied.

The other day there was a man party who asked ducky master to send my picture; and also there was man who send to me by mail some eadibles specially.

More the human sympathy I recieve, more I feel I forget the fact that I am a cats. Day aftre day I become to feel I am a man, and, consequentely I do not have any ambition which I used to have to gather all the cats in this world and try to combat with the mankind almost evaporated from my head nowaday.

Furthermore and moreover, I made more evolution that I sometime entirely forgotten that I am a cat and think I am a man, and I think this a great progress indeed in myself. This does not mean to say that I despise to be a cat or to despise the cat in general; on contrary I would not be pleased to be said that I am a Judah of Iscaliote or I betrayed my cat-family or something as it is not the case with me; only thing which I can say is this that it is so natural for any one whether one is man or cats that it always trys to be near to that one which one has stronger attachment and I do try to be near to the mankind as I am more attached to this mankind.

To my minds it appears to be true that one who makes a charge that that one is CHANGE-MIND or THE BETRAYER etc. is always the one who is lopsided and can not be used by any means for better. When I realize myself that I made such a progress or evloution I can hardly be troubled by the fact that Miss Mike has passed away or the Black of Kurumaya is too low-brow to associate by.

I feel withal like to review their thoughts and actions from the standpoints of man or at least in such a mood.

WHAT'S UNNATURAL?

And I dont think it is unnatural.

Only thing, however, which is regrettable is that the sapient masters does not understand this fact and still thinking that I am a mere cat and nothing more and from such a viewpoints he has eaten the eadibles which are send to me by some of the friend who was living in the country without any notice by me.

And also, so far as I know, he did not take my pictures as yet.

This is not of course fair. But dear master is dear master and I am I and that naturally means to say that there is natural difference between sweet patootie master and myself in the opinion so I wuold not make much protest in this case.

As I have told you, I do not associate with the cats nowadays so I can hardly write any thing of the cats but the things of the men and particurally of those men as the great friend of the fond master and Mr. Coldmoon etc.

One Sunday. It was so beautiful weather. The nice master came out of his Study with pen and papers and laid himself down very near to me and began to work on something or other. I didnt know what he was doing but he was trying to write something it seemed to me. There was some conversations with wife and it was perhaps more than the conversation although it was not fighting. Then the great friend of the oily master came in as it is always the case in such an occasions.

"Are you writing GIANT GRAVITATION again?" asked challenge great friend of the sweet masters.

AT IT SEMPITERNALLY.

"No, I am not writing the GIANT GRAVITATION all the time," expostulate the coy master.

"I am writing the sentence which is to be placed on the tomb of the nature lover" he said, and it was pretty much great writer like saying I should say.

"What do you mean by?" asked the great friend of the truly master. "Who is the nature-lover to whom you are writing the sentence now?"

"Why, you know him very well I am sure. Dont you remember that fellow who was with us in the college and after he graduated from the college he went through the graduate school and studied the philosophy and made special research on the SPACE and as he studied too much he died too early; he was my good friend, dont you know that?"

"Why, that is all right if he was good friend of yours, I dont have any objection to that. But who called him as the Nature-lover as you have said of him now?" said the great friend of the uncommunicative master.

"I did it myself, you know that the names given by the priest are all the time pretty bad one, I dont like them—not not at all. So I gave this name to him my self."

The pretty master was boasting himself as if he was great writer or something.

"Well then, let me see the sentence which you have written now, I like to read them," saying so the great friend of the curious master took up the muniscript and began to read it.

"What, what you mean by this—let me see—He was born in the SPACE and studied the SPACE and died in the SPACE and all the things are EMPTY——" he read this sentence with the great big voice and said:

A REALLY, TRULY SENTENCE.

"Well, well, this is really the great sentence I should say; it is really fiting—I should say it is all together fitting for that man."

The embarrased master was pretty pleased and said "Isnt it good one?"

"Yes, it is great, I should say, you are some man arent you?" said the great friend of the darling master.

And then the master said to the great friend of the humble master "Just a few munites, I must go out and shall be back very soon, so please be with the cat until I get back" and before the great friend said any thing no matter what he went out of the room.

Unexpectedly I am forced to entertain the great friend of the cautious master and I cant be unsociable to the likes of him; I must be cherful so I began to entertain him with my "Meaow-Meaow" and got on him rap.

"Well, well, you get so fat, arent you? let me see," said the great friend of the retired master and he took me up by necks. I was pendant in the middle of the air and it was natural that my hind legs to drop and it was so. Then he said to me:

"My, my, you poor, poor cat! if you drop your legs in that that way you dont catch the rats, dont you?" and than he said to the wife of the absentee master what was in the next room:

WHAT'S MISE CATCHER.

"How is this cat? Is he good mise-catcher?"

"Why, no, poor dear, he does not I should say, and furthermore he does something awful you know. He ate the Mochi the other day and danced all round the ketchin you know," purr the wife.

She is so merciless that she made uncover of my embarrecement of that Mochi business, and the great friend of the still retired master still was holding me in the middle of the air. I was so embarreced.

Then he said to the wife:

"Is that so? I certainly think this cat can do that trick. Yes I should say he does dance, I can judge by his fanciful facial expressions, you must be very careful in handling this cat; he expound to the wife.

He was talking to the wife who was working on sewing in the next room and I was sure that it anoied her very much.

(NEXT SATTIDY SEE WHAT.)

ロスアンゼルス (十五日)

家賃調節は一般投票

▲選に請願書を受理

家賃令制定に關し借家人保護協會より再度市會に請願せるも市會は斯かる權能なしとして受理せられざりしが保護協會に於ては一般投票に附すべき請願書を提出するに決し當二萬人の署名を得て四日市書記の許に請願書を差し出すに至り市書記ともこれを受理し十五日來署名の調査に着手せる由にて市書記側にて正規のものと認めた場合は直に市會に廻附市會は其のまゝ通過せしむるか又は特別に一般投票日を定め投票せしむるかの何れにか決議するならんものとなる市法律顧問は同法案の憲法違反なることを市會に注意し居り保護協會側にては若し市會の受理せざる時は州高等法院に請願書を提出すべき旨言明し居れりと

「手心」は何か問違

▲徴兵延期者歸國滯在期間に付沿岸各目會代表者東京にて陳情運動の結果三ケ月間丈けは手心を以て延長するべき樣の了解を得たりと傳へられ居りしも當地傾事館にて外務省に問合せるに對し十四日着便にて『行政上の手心』云々は何かの間違ひにて當局は規定通り實施しつゝある旨の回答あり領事館は右の旨直に中央日本人會に移牒し來りたる由なるが之れに對し某消息通の語る處によれば元來外務陸軍兩省の關係は圓滿なるべき傾向あれば外務省より正式に陸軍省に向ひ行政上の手心云々の質問をなさば陸軍省は勿論斯る手心なしと回答するの外なきも事實當局の諒解を内密に得る譯なりとのことにして中日會に於ても陳情委員の了解を得なりとの報告に對し那邊迄確實なるかを問合せ中なれば何れ近く事實判明するに至るべしと

●各案の委員決定 過日中央日本人會時局部にて委員を開き各種提案に對する委員を推薦するに決し藤岡會長に一任せるが其後決定依頼されし委員は左の如くなり

▲新土地法の下に農業を經營する方法の研究委員

光吹山田、露木、小野田和、深野、西田、古田松永、大塚、谷越、新谷、山田忠、岩橋光堀、土橋、中畑、吉峯

▲國外發展計劃委員

坂本、角、北崎、佐々木、佐村、福島、赤司、畑下、水野、戸、安西、柴田

▲中央議會に對する請願委員

和歌山縣人忘年會 南加和歌山縣人會最終役員會は十五日夜一富士に開會出席者三十餘名湯淺會長の挨拶、笹井幹事の報告ありて後大正十年度定期總會を一月九日月曜日大師教會ホールに於て開會と決し當日は第二式に各種餘興を催ほし縣人一般を招待する筈にて其の委員に富尾奥、笹井、山谷、巽、鎌田、堀、山本城、尾崎、植田、竹本、浦神、鳴海、青柳諸氏を推薦し尚ほ南加州同縣人の發展を記錄する大會報發行を決議し其の編纂委員に浦神山谷、尾崎、鳴海、奥、富尾、森、笹井、富本諸氏を推し夫れより忘年會に移り盛會なりしと

●清瀬代議士歓迎 十六日正午布市より着羅羅日會代表者及び舊知の出迎を受けアレキサンドリア・ホテルに投宿したりと

フレズノ (十五日)

レーズン會社起訴理由修正

▲合衆國檢事局より起訴され久しく問着中なりしが今回起訴理由不充分なるの故を以て係判事より修正の必要を暗示され合衆國檢事局は起訴理由を修正し羅府合衆國地方裁判所に廻送するは既報の如くなるが今日布市芝字合衆國檢事局より起訴されし同の起訴理由に大差なきもレーズン會社が一萬二千名の生産者の九割までを會員に入れ資本金を百萬弗より五百萬弗に增加し更に株主としては衛荷生産者以外の人々をも網羅せんとするが於て從來六十名内外を以て組織されたる同會社事實上の解散を告げた

▲感謝の意を表す 寄附者總會が解散せんとするに先立ち光内正直氏は增田議長に向つて發言有志がサンタクラ、物産鐘詰會社を組織し同時に日本人町の間近に在るアルバ鐘詰會社を買収したるとは既報の通りなるが昨五十五日萬事の手續を結了したる由にて本日より取締役會を開催し相談役に引繼を了したる由にて本日より實行委員、弁引、山川、岡垣等の諸氏が新に本國聖書社設立の日本譯聖書を寄附せられ來年の製鐘準備に取りかゝるべきアドレスを送り同鐘詰會社のアドレスは十五日逃亡し羅府方面に向ひたる形跡あり尚は同人は人妻齊藤テルヨ(廿七)をも誘拐同行せる事明瞭なり

▲逃亡 オレゴンシテー附近に農業を營みたる福島縣人花久金重郎及び同妻ヒサは就働者武田正平氏の働き賃金千三百弗を不支拂の儘廿五日逃亡羅府方面に向ひたる形跡あり尚は同人は人妻齊藤テルヨ(廿七)をも誘拐同行せる事明瞭なり武田氏は日會其他に捜索方依頼せり在所通知の方には相當の謝禮を致すべしと

息女みさをを儀先ヶ月自動車に轢かれ不慮の怪我を致し桑港に出て養生中救世軍醫事部顧問古庄弘氏の懇切周到なる御在治を蒙り居候同氏が病者に盡さる献身的御精神に感謝の餘り茲に紙上を以て感謝を表し候

加州サンオン市 坂田大八

ロンドン (十五日)

日會評議員會

▲獻迎會 今日午後八時亞市南美以敎會に於て前日曜洗禮を受けたる十人の信者者及び敎會人會者一人に對し歓迎會を催す由なれば一般信徒の來會を希望する

▲徴兵猶豫の特典なし 昨日より同事務を開始したる

▲徴兵猶豫願に就て 大正十年八年十二月一日以後日本に於て徴兵猶豫延期をなして渡米をしたるものは米國に在住し居るも猶豫の特典なしと

▲豫定也 今日午後八時亞市南美以敎會に於て前日曜洗禮を受けたる十人の信者者及び敎會人會者一人に對し歓迎會を催す由なれば一般信徒の來會を希望する

▲亞市少年隊に謝禮 亞市同廻少年隊に去る十一月の一般投票に在米日會が配布したる印刷物を米人各戸に散布したる功勞に對し亞市日會は金五弗を同少年隊に謝禮したる由

●賀表寄附 王府獨立敎會の藤賀一氏は米國聖書社發行の日本譯聖書を一册三十五仙より一弗五十仙迄に販賣すべしとクリスマスの贈物用には好品なりと

サンノゼ (十五日)

●同胞の鐘詰會社引繼 本郡の前記の通り同胞鐘詰會社は昨夜八時より取締役會を開催し相談役に在るアルバ鐘詰會社を買収したるとは既報の通りなるが昨日實行委員、弁引、山川、岡垣等の諸氏が新に本國聖書社設立の日本譯聖書を寄附者總會が時局委員の活動に對して感謝の意を表するとの事なりと議事録に殘す

●取締役會 前記の通り引繼を了したる同胞鐘詰會社は昨夜八時より取締役會を開催し相談役に在るアルバ鐘詰會社を買収したるとは既報の通りなるが昨日實行委員、弁引、山川、岡垣等の諸氏が新に本國聖書社設立の日本譯聖書を寄附者總會が時局委員の活動に對して感謝の意を表するとの事なりと議事録に殘す

●賀表寄附 王府獨立敎會の藤賀一氏は米國聖書社發行の日本譯聖書を一册三十五仙より一弗五十仙迄に販賣すべしとクリスマスの贈物用には好品なりと

●出生 栗本佐市氏三男隆義出生

●寫志寄附 植野吉五郎氏歸國記念として日會へ金五弗寄附せりと

ポートランド (十五日)

●兎斯値上げ請願 當市瓦斯會社は明年契約滿期と共に使用料五割方値上をセーラム州廳に請願したり

●吉田官補歓迎會 十三日夜マルトノマ・ホテルに於て日會主催の吉田官補歓迎會あり盛會なりき

●廣嶋縣人南加觀光團 廣島海外協會主催にて南加觀光團を組織し一月五日當市發

●豫定也 今日午後八時亞市南美以敎會に於て前日曜洗禮を受けたる十人の信者者及び敎會人會者一人に對し歓迎會を催す由なれば一般信徒の來會を希望する

●會費未納者へ 目會より計帳簿整理上の都合あれば會費未納者は至急納付ありたしと

●幹事辭任 周幹事は故國某私立大學の招聘を受け來春早々歸朝の豫定にて既に辭表を提出せり

●會費未納者へ 目會より計帳簿整理上の都合あれば會費未納者は至急納付ありたしと

●豫定也 今日午後八時亞市南美以敎會に於て前日曜洗禮を受けたる十人の信者者及び敎會人會者一人に對し歓迎會を催す由なれば一般信徒の來會を希望する

●獻迎會 今日午後八時亞市南美以敎會に於て前日曜洗禮を受けたる十人の信者者及び敎會人會者一人に對し歓迎會を催す由なれば一般信徒の來會を希望する

●徴兵猶豫願に就て 大正十年度の在外徴兵猶豫者は明治三十三年十二月二日以後三十四年十二月一日までに出生したる者にして戸主が在外領事館の證明を得て出願する事由は明治二十年十二月二日以後の出生者は猶豫延期をなす事因みに王府村會は

●廣嶋縣人南加觀光團 廣島海外協會主催にて南加觀光團を組織し一月五日當市發

●豫定也 今日午後八時亞市南美以敎會に於て前日曜洗禮を受けたる十人の信者者及び敎會人會者一人に對し歓迎會を催す由なれば一般信徒の來會を希望する

●會費未納者へ 目會より計帳簿整理上の都合あれば會費未納者は至急納付ありたしと

●幹事辭任 周幹事は故國某私立大學の招聘を受け來春早々歸朝の豫定にて既に辭表を提出せり

●賀表寄附 王府獨立敎會の藤賀一氏は米國聖書社發行の日本譯聖書を一册三十五仙より一弗五十仙迄に販賣すべしとクリスマスの贈物用には好品なりと

●出生 栗本佐市氏三男隆義出生

●寫志寄附 植野吉五郎氏歸國記念として日會へ金五弗寄附せりと

ポートランド (十五日)

●兎斯値上げ請願 當市瓦斯會社は明年契約滿期と共に使用料五割方値上をセーラム州廳に請願したり

●吉田官補歓迎會 十三日夜マルトノマ・ホテルに於て日會主催の吉田官補歓迎會あり盛會なりき

●逃亡 オレゴンシテー附近に農業を營みたる福島縣人花久金重郎及び同妻ヒサは就働者武田正平氏の働き賃金千三百弗を不支拂の儘廿五日逃亡羅府方面に向ひたる形跡あり尚は同人は人妻齊藤テルヨ(廿七)をも誘拐同行せる事明瞭なり武田氏は日會其他に捜索方依頼せり在所通知の方には相當の謝禮を致すべしと

息女みさをを儀先ヶ月自動車に轢かれ不慮の怪我を致し桑港に出て養生中救世軍醫事部顧問古庄弘氏の懇切周到なる御在治を蒙り居候同氏が病者に盡さる献身的御精神に感謝の餘り茲に紙上を以て感謝を表し候

加州サンオン市 坂田大八

開店廣告

小生儀從來の靴工業を廢し今般新に食料品店を開業致候間倍加の御引立を得度願上候尚ほ今後通信等のアドレスは左記に御願申上候

十二月十一日

ハチー・ストア

大川團三郎

電話レーキサイド四一四四

1617 Telegraph Ave., Oakland.

年に一度の辭儀

生活に餘裕のある人と無い人との別なく在留同胞位、心忙しく日を送る者は多い、從つて平常の辭儀は得て怠り勝ちであるが故にせめて年に一度の新年に際は非年賀を兼ね手紙なり端書なりを送り取りすべきである此際本社は盛裝した新年號を發行して例年の通り各地知名の人々の名刺交換廣告を掲載して此辭儀の一端を盡す便宜に供したいと思ひます御希望の方は左記申込書に御記入の上至急御送附下さい

○廣告料一人金一弗 ○締切十二月廿日

募集金の手數を省く爲チェック、紙幣、郵便スタンプ等御便宜次第送金を乞ふ

桑港 日米新聞社

申込書

氏名

金 弗

添附

日本字にて明瞭に記入の事

THE JAPANESE AMERICAN

650 Ellis St., San Francisco, Calif.

切り取れ價値あり

此紙片を切り取り郵税五仙を封じ住所姓名を明記してFoley & Co., 2835 Sheffield Ave., Chicago, Ill.へ送らば試用として咳風邪にハネターを奉飾膀胱リユーマチスに腎臓丸藥を送るフオレーのカチック錠劑は膀の不快便秘頭痛消化不良を治す (十二の一)

極上葡萄苗販賣 タムソン、ソルタナ、モスケ、マラガ、ユムブロー各種葡萄各賣却す御希望者左記へご御照會 芝吉三郎 Rt. A Box 280 Sultana, Calif.

新開業 旅館及玉塲 加州サンオン市 二宮德太郎函二七五 電話二五

大勉強 ちん餅 たゝ正月の御用に應じます 王府フランクリン街七一二 菓子店 富士屋

各種苗木販賣 各位益々御繁榮賀候偖て弊店儀來春植附の各種苗木十二月に入れば堀出候間御入用の方は多少に不拘御注文の願上候 尚ほ所有販賣品風左記の通り ▲葡萄の部 ▲タムソン▲コニション▲ソルタナ▲マスケット▲マラガ▲ジエントカランツ▲エムベロー▲コンコード▲レッドブリユー ▲オーナツツの部 ▲ユリカ▲ウイルソンオンダー ▲メイエット▲ランクエット ▲イチヾク(フキッダス) ▲タネナシカドタ▲ケブリ▲ホワイトドリアチック▲ブラックミヲション▲カリモニア ▲プラム類 ▲クライマックス▲バカビル▲ケルシー▲ウキツン▲ポーバ▲ナンタローザ▲ビューチ▲プレシデント▲ダイアモンド▲グリンデユク ▲ピーチ類 ▲ラブル▲ミユア▲アポタ▲タスキヤンクリング ▲チエーリー類 ▲ブラックタータリアン▲ローヤルアン 以上の外エブコット▲ブレンヘイム▲ローヤル▲バタレット▲アプフレンチプルーン▲石榴 ▲オレンヂ▲レモン等各種有之候間御注文願上候

木村苗木商 木村辰之助 CENTRAL NURSERY 935 F St., Fresno, Cal. 自宅布市エフ街五四七 電話畫四七八＝夜三七一一W

アニオン種子 オースタ・ケアラツ百斤以上(一斤につき)五十仙(サンオ百斤以上(同)三十仙(シンプル) R. F. D. Box 1-A, San Juan, Bautista.

極上葡萄苗販賣 タムソンソルタナ、モスケ、マラガ、ユムブロー各種葡萄各賣却折口正太郎 Rt. A Box 107 Reedley, Cal.

新刊及日記類

博文館發行大正十年當用日記大形上製	一、五〇
同中形總皮函入	二、二〇
同中形背皮函入	一、四〇
同中長形上製	一、一〇
同小形上製	九〇
大正十年ポケット日記A號	八五
同B號一、二〇C號二、〇〇D	
三〇B號一、二〇C號二、〇〇D	
號六五E號七五F號六〇〇G號七	
〇大正十年懷中日記三〇、三五、	
四〇、四五	
同年家庭日記中形上製	一、二〇
同英文當用日記	一、二〇
共同出版社發行	
新當用日記中形皮製	一、五〇
上製	一、二〇
新婦入日記中形上製	一、二〇
高島易斷所本部	
九星一代運氣活斷口傳書	一〇〇
大正十年運勢暦	三〇
大正十年新年刷込み繪ハガキ一打	二五
百人一首歌留多(標準)一組	一、五〇
同箱入自三、五〇至四、五〇	
德富蘆花原著 英文不如歸	二〇〇
尾崎紅葉原著 英文金色夜叉	二、〇〇

羅府東一街二五〇電六二五九五 博文堂

苺苗及種芋各種 品質價格共に一應乞御試用 250 E. 1st. Los Angeles, Calif. 博文堂

央州農業組合 155 Front St. Portland, Oregon

帝國平原農業家へ告知 キャンタローブ包み紙並に古新聞(羅府相場)御注文次第發送日本人と取引を望む SCHENIMAN'S Brawley, Calif.

特別大勉強 ちん餅 布市カーン街一四三〇 柏屋菓子舗 電話三〇九一R

轉居 小生今回キングスバリより布市カーン街一四三〇に轉居仕候間御用の方は左記へ御照會下さい 小林長房 Rt. A. Box 185 Orosi, Cal.

王府 マデソン街七百十番 電話王府八六三一 王府支社

大工業 伊藤良之介 王府第七街三元 電話王府七六三

王府第六街壹七〇 公認 産婆 山崎シモ 電話レーキサイド四五三一六

王府マデソン街七百十番 電話王府八六三一 王府支社

王府第七街三元 電話王府七六三 ◎引延◎進呈◎重富寫眞館

王府マデソン街一六 電話レーキサイド四二四五 井手産院

左の規定により申受候 (一)姙婦の診察は一ケ月一回とし但異常ヲ認メタル場合ハ此ノ限リニアラズ(二)分娩後ノ處置ハ一週間トス(三)初診ノ往診料ハ市内三弗以上市外五弗以上自宅診察ハ二弗以上トス但シ自動車代ハ患家ヨリ申受クル事(四)助産料ハ市内三十五弗以上地方十哩以内ハ四十弗十哩以上ハ五十弗トス但シ雜産ノ場合ハ此ノ限リニアラズ(五)助産料ハ必ズ二週間以内ニ請求スル事萬一支拂遲延等ノ故障生ジタル時ハ當該會員ニ代リテ本會ヨリ直接請求取立スルコトヲ得

南加日本人産婆會

新荷到着日本米及もち米賣出し 電話王府七二〇二 王府七九六

御注文次第發送日本人と取引を望む 英文金色夜叉 羅府東一街二五〇電六二五九五 博文堂

橋本病院 加州認定 公認 215-6th Street Oakland, Calif. 橋本秀治 王府第六街二一五 (電話)レーキサイド二〇九〇

入院隨意 大小手術及各種注射の需めに應ず 元帝國大學補助助手 橋本秀治

公認 歯科醫師 王府マデソン街一六 電話王府八六三一 矢幡富藏

公認 歯科醫師 王府第六街二一五 電話王府三三六〇 犬飼猛

公認 歯科醫師 王府第八街五一八 電話王府八六三一 本間修二

公認 歯科醫師 王府第十五街五〇六番 電話王府三三六〇 住宅王府八二〇七 ブラッセルビルディング五〇一—五〇二

公認 歯科醫師 王府第八街四一二日本館内 電話王府六六七一 住宅羅府八街一〇五

王府第七街三元 電話王府七六三 ◎引延◎進呈◎駒井寫眞館

王府第廿街五一〇 電話王府七一六 アートクラフト寫眞館

王府第十三街四六七 電話王府一二六二 幸若 牙須 櫻井久太郎

王府第廿街五一〇 妊産婦助産容設備完全 加州公認 電話オークランド一六六四 堀田産院

王府マデソン街一五八〇 公認 電話レーキサイド五三一五 武田産婆

1711 Telg. St., Oakland Tel. Oak 5258 イースメン洋服店 鈴木

日本人の支那料理 第八街四一五 電北京一一四 藤田 美洲樓

羅府 北マンビドロ街一二八 電話六六五七八 羅府支社

紐育生命 公認代理 電話一一一一一八 Tel. 15427 605 Turner St., L. A. 南加日本病院

424½ E. 7th St., L. A. Calif. 東一街六〇六中一南海藤内 電六六七一一〇 齋藤齒科醫院

醫學士 古澤 齒科 電話一三三一 須々木榮

東一街 電話三三一中 電話一五〇五九 自宅一九一五四 産婦人科内外科 古澤

電話一五八五七 高等 御食事所 川福

羅府ウエリングトン街一〇九年 電話一五八五七 モネタ原醫院

モネタ牧會館 電話モネタ三九一 小林診察所

羅府東一街二四五 電話二二九〇 貸金部 小川時計店

羅府東一街二四五 電話二二九〇 貸石鹸 小川時計店

羅府南サンビドロ街一五年 電話 小林診察所

羅府南サンビドロ街一五年 電話 佐藤琴子

加州公認 電話 日本内科醫院 電話フエヤオーク二一一六二一

羅府 深澤齒科醫院 3381½ E. First St. Tel. AJ3178

加州羅府東九街八〇〇 電話 一三〇六四 羅府 自動車專門學校 學生募集 800 E. 9th St., Los Angeles, Cal.

セントラル魚市塲 CENTRAL FISH CO. P. O. Box 516 San Pedro, Cal.

羅府サンビドロ港 ホワイト・ポイント 病に特効あるホワイトポイント ラヂウム温泉 主人 田上兄弟 107½ East 1st. St., L. A. Calif. P. O. Box 975 San Pedro, Calif.

篠原眼科院 Telephone 15745 Res. 65137

ニューヨーク生命保險會社 養老保險 電話16495 小野助四郎 537 Maple Ave., Los Angeles, Cal.

電話畫四七八＝夜三七一一W 木村苗木商 CENTRAL NURSERY 935 F St., Fresno, Cal.

自宅布市エフ街五四七

電話 王府一二〇二 王府七九六 灣東商會

電話 王府一二〇二 王府七九六 灣東商會

王府第六街壹二 電王府一二六三 ◎引延◎進呈◎駒井寫眞館

王府十三街四六七 電話王府一二六二 幸若 牙須 櫻井久太郎

王府第廿街五一〇 妊産婦助産容設備完全 加州公認 電話オークランド一六六四 堀田産院

王府マデソン街一五八〇 公認 電話レーキサイド五三一五 武田産婆

1711 Telg. St., Oakland Tel. Oak 5258 イースメン洋服店 鈴木

日本人の支那料理 第八街四一五 電北京一一四 藤田 美洲樓

羅府 北マンビドロ街一二八 電話六六五七八 羅府支社

紐育生命 公認代理 電話一一一一一八 Tel. 15427 605 Turner St., L. A. 南加日本病院

424½ E. 7th St., L. A. Calif. 東一街六〇六中一南海藤内 電六六七一一〇 齋藤齒科醫院

醫學士 古澤 齒科 電話一三三一 須々木榮

東一街 電話三三一中 電話一五〇五九 自宅一九一五四 産婦人科内外科 古澤

電話一五八五七 高等 御食事所 川福

羅府ウエリングトン街一〇九年 電話一五八五七 モネタ原醫院

モネタ牧會館 電話モネタ三九一 小林診察所

羅府東一街二四五 電話二二九〇 貸金部 小川時計店

羅府東一街二四五 電話二二九〇 貸石鹸 小川時計店

羅府南サンビドロ街一五年 電話 小林診察所

羅府南サンビドロ街一五年 電話 佐藤琴子

加州公認 電話 日本内科醫院 電話フエヤオーク二一一六二一

羅府 深澤齒科醫院 3381½ E. First St. Tel. AJ3178

加州羅府東九街八〇〇 電話 一三〇六四 羅府 自動車專門學校 學生募集 800 E. 9th St., Los Angeles, Cal.

セントラル魚市塲 CENTRAL FISH CO. P. O. Box 516 San Pedro, Cal.

羅府サンビドロ港 ホワイト・ポイント 病に特効あるホワイトポイント ラヂウム温泉 主人 田上兄弟 107½ East 1st. St., L. A. Calif. P. O. Box 975 San Pedro, Calif.

篠原眼科院 Telephone 15745 Res. 65137

ニューヨーク生命保險會社 養老保險 電話16495 小野助四郎 537 Maple Ave., Los Angeles, Cal.

電話一四〇〇三 醫學士 唐木保藏 317½ E. First St., L. A. Calif.

東第四街 電話六一四一 宮田雄次郎 西五九街ドロトル 六ブロードウエ二一九六

羅府エライアドトル 平田篤次 電話六四九〇四 自宅パセント六〇九八

布市エフ街九四九 電話三九四二W 布市支社

布市イ街五六一 電話四〇七八J 江田産院 自動車の備附あり 加州公認 産婆 江田ユヤノ

日本人間唯一の家具店 M&T 家具店 布市エフ街八五一 電話 一八四七 二五九六

松本兄弟書店 1535 Kern St., Fresno, Cal.

日本送金一百弗以上無手數料 ▲小口當座通帳無利息 ▲定期一ケ年は四分 ▲保管箱賃料は一ケ年三弗以上

株式會社 布市勸業銀行 ▲正金銀行預金は滬船出帆三日まで迄に申込が確かです ▲營業時間日曜祭日の外毎日午前九時より午後三時土曜午前限

布市イ街一〇二五 電三八二四M 加州公認 三浦産院 三浦チヤ子 小山ゆきの

◎新鮮なる材料にて調理◎九月一日より開業◎日本人諸君歓迎 支那料理 中央樓 布市 部谷書店 922 F St., Fresno, Cal.

公認 はりさ(う)倉谷滿子 布市エフ街一〇一七 支部活動二階

布市イ街一〇二五 内務省免許 許鍼灸醫 藤森治療所 マッサージ 電三八二四ヨ

布市イ街一〇二五 電話 フレスノ病院 村尾錬志 村山三十五郎

フレスノ公認歯科醫 電話 フレスノ 關直太郎

フレスノ公認歯科醫 電話 フレスノ 白山紀一

236 F St., Fresno Calif. 電話 フレスノ 小此木病院 Tel. 13391.

サクラメント（十七日）

魂膽ありさうな購買地問題

▲地方人の妨害か但は▲英字紙の煽動記事か

同胞農業家によりて組織さるゝ會社がイー・ビー・マコマツク氏との間にサター郡グレッドヒルコロニー內三十八英町の土地を購買する契約成立し去月十五日地券の交附まで行はれたるに同地方の白人が日本人の入村に反對せりとの報道過日傳へられしが排日代表者は此の契約が土地法に違反せるものとの見解を有せるもの如く昨日來櫻して地方檢事總長補ジヨンス氏を訪問し意見を徵したりと土地は始め相手方のマコマツク氏が同地のダリーンなる人より購入したるにて日本人には賣却せずとの口約ありしものなれば契約違反として抗爭し何處までも日本人を排斥せんと舊地主は唱へ居れる趣き排日紙は報じたるも實際の狀態は如何にや舊地主は排日家連の一種の壓迫と甘言に心を左右せられたるも計り難きが喧しきは少數の排日家と英字紙のみにして地方の白人は案外に平靜なるものかも知れず調査して再報する機會あらん

●近澤歡喜咲近狀 精神錯亂して過日義理の叔母を刺殺せるフロリンの農業家高知縣人近澤歡喜咲は己れも自殺を試みて咽喉部を切斷せしものから郡病院の施療室に運ばれ應急手當を受けたるが創痍の經過も精神狀態も至極好良なれば至て昨日シスター病院に移されて療養中なりと

●忘年會は金華樓 來る十九日の日曜午後六時より開催のタウン一般の日會主催の忘年會場はエル街の金華樓と決定せる由

●結婚式 當市第五街土居商店主山口縣人土居正一氏は桑原ネ子と昨夜第五街の獨立教會に於て結婚式を舉げたる由

●六村分隊長來櫻 特務艦能登呂乘組の分隊長六村爲樹大尉（鹿兒島出身）は昨日十時來櫻唐川日會幹事の案內にてフォルサム監獄を參觀し午後七時の電車にて歸桑したりと

●養老の學藝會 ローロー郡ブロードリツクの日本小學校にては來る十九日の日曜午後三時より同校生徒の學藝會を催し日英兩語にて讀方、話方及び暗誦等を試むべしと

●歸國者 當市玉川湯の竹本榮吉氏フォルサムの農業家竹本政吉氏は本月廿四日のナイル號にて、フォルサムの農業家金野信太郎氏は本月廿九日の春洋丸にて、當市廣島縣人畑正一氏は一月十九日ペルシャ丸で一時歸國

スタクトン（十六日）

須市片信

▲不景氣〳〵と云ひ乍も流石に歲末は歲末らしく市內同胞各商店競ふて店頭裝飾を凝らし日本人街も何となしに朗かるく賑やかな氣分と相成候

▲クリスマスや歲暮の贈答も勿論身分不相應に張り過ぎては却て其意義を沒却すべきもそれ相當分に應じ寸志を表はす丈けのシンプルで心のこもれるプレセントは是亦社會家庭生活の慰安ならずとせず但しくれ〳〵も贈答の爲めに贈答をなし之が爲めに御互苦痛を感ぜる如き愚かなる習慣は斷乎として改善すべきものと存候

▲近來田舍のチヤンプを種々慈善や宗教團體などの名を以て寄附金を募りに廻る白人一人二人ならずありて皆困つて居ると河下より來れる知人の話に有之候是等も何とか日本人會ででも注意し日本人會の保證狀なき者の寄附金募集には應せざることに取極むるか又は他の手段を講じ置く必要無きかと被思候

▲來十九日夜友愛倶樂部に開催す可き學生會茶話會には特に學生諸君が先輩諸氏を招待し懇談す可しとのことに候先輩諸氏も宜しく進で斯うした會合に出席し胸襟を披いて學生諸君と談合ひ且つ學生諸君の若々しき氣分に觸るは決して無益のことに無之候

▲須市タイムスが新年號に掲載すべく當地方有志に質問數項を印刷せるブランクを送り（一）好きなもの（二）嫌ひなもの（三）好きな人（四）嫌ひな人（五）好きな花（六）好きな女性（七）すきな道樂等に就て回答を徵しつゝあるは興味ある企てに候之れに依て回答者の性向が伺はるべく候

●同情寄附 桑港森山寫眞館主森山氏は當地州立病院に在る菅井一美に同情し金五弗を桑牧師まで送り來れり因みに去十四日の當支社通信中菅井が森山氏方にヘルプし居りし如く記載ありたるは誤にて以前一二度面合せたるとあるのみにて唯同業者としての知合なりとのことに付茲に正誤す

ワツソンビル（十六日）

●共同降誕祭 商業會議所主催の共同降誕祭は二十五日夜市公會堂に於て開催せらるべく日本人側よりも多數の子女參會は勿論二人づゝの成人男女和裝にて出席せられたき旨ワイコフ夫人より申込みあり地方的親善の爲めにも此舉を聲援し十分に申込みを滿足せしめざるべからざる日本人會は宗教團體と交涉適當の方法を講ぜることとならん

●華星倶樂部 男女學生修養機關たる同倶樂部主催のクリスマスパーチーは十八日夜ヤマトクラブに開催せらるべく英文案內狀を一般に發したり當夜は定めて節制ある立派の集會たるべく豫想され居れり

●免許狀下附 サリナスに開業中の小田ドクターは醫術開業免許狀を交附せられたる由

●チヤッド翁 エ・エヌ・ヂヤッド翁は日本人問題につき意見書を國務卿に致せるが此の程同省より丁重なる返事來れる由なるが親日家の同翁なれば其意見書の內容も略ぼ察するを得ん

●草苺枯死と雨量 サンタクルーツ郡特に華村附近の草苺の大部分が本年枯死の狀態を呈した原因について所說區々であるカーネギーインスチチユートの植物病理の大家フリー博士が四ケ月間の研究發表によると二つの原因がある一はイリゲーションで用水後の水分蒸發が溶解塩分を激聚せしめる二は過去三ケ年雨量が少なかつたそれがため地水が常に地表に吸ひ上げられると同時に塩分の多量をも運び上げた大雨があつたならこの塩分凝聚を還元せしむることが出來たらうが最近三ケ年間の旱りと塩に弱い草苺と來てをるから枯死するので無理はない大雨で右の塩を漉し流して地下に引きこますが最上策でこの點から見て本年の大雨は草苺に尤も利益があつたらう、なほ塩といふのは主に塩化曹達と硫酸曹達のことである

●サンオンの雜信 大根仕事は終了せしが四五百英加にも達すべき邦人のガーリック植ゑにいま一週間程の天氣を望み居れり▲藤本康彥氏はベタベルのミラー所有地三十英加を子息丁年に達したるとき一英加五百五十弗にて買ひ受けの契約を締結▲日本人會にては先日會員から徵收した寄附金か豫期以上の六百餘弗に達したので在留負擔額の一部を支拂ひまた經常費をも決濟した近く最終評議員會を開き役員改選や總會開催を議する筈▲補習學校の父兄會を十二日に開き一月一日に學務委員（來年度より一人）と會計を改選しまた寄宿舍設置をも議題に上す相談があつた▲サーゼント苺園江藤仁一氏ミセス華村病院で男子分娩▲杉岡禎一氏一家族春洋丸で一時歸朝二人の小供が米國旅券を得るに大分手間がとれたる由▲ホリスターからテキサスへ移住する某日本人は一年間の肉代五十何弗かに對し白人肉屋に不渡り小切手をつかました由故意でなくば至急片をつくるが日本人の信用を完ふする道なり▲サーゼント苺園の坂田大八氏は桑港救世軍醫事部顧問古庄弘氏に感謝廣告を別項に掲載し居れり

正月餅 櫻府エム街三二五 電話メーン三一九三ゼー 松月堂

廣告 宮田新造 宮田梅 右兩人自今當一行と何等の關係無之に付此段廣告仕り候也 十二月十一日 二代目 雲右エ門一行 事務所須市南センター街一二四 須市興業會社內

內務省免許 加州公認 產婆 大塚產院 姙產婦、收容所 福岡醫科大學看護婦卒業 南センター街三二〇 電話架設中

尋人廣告 滋賀縣犬上郡磯田村八坂出身 當時ヨロー郡ホード住 若林半次長男 正喜（六歲） 右本月十一日午後四時頃より行衞不明となり搜索中に付き心當の御方は左記へ御一報を乞ふ R. F. D. Box 74 Hood, Cal. 若林半次

歌舞伎開演 來十九、廿兩夜本年度最終興行として朝日座に開演仕候 須市 紀の國屋一座 世話人一同

私儀愚妻病氣療養の爲め來る廿九日春洋丸にて一時歸國可致候留守中は義弟前原利平、長久政二、魚賣佐太郎の三人に萬事囑託致置申候間何卒私同樣御引立の程御願上候 歲暮、正月用品は一切取揃有之候間例年の通り御注文被成下度別けて希上候 櫻府エム街三二七 電話メーン一一五九 中國商店 山根萬吉

產婆 私事再渡米再開業仕候間倍舊御引立の程奉願上候 須市南エルドラド街三二七番 小杉ルーミング內 電話一七二九 西岡ハルヨ

大安賣 御小供さん方御待かねのクリスマス、御正月向の贈答用品 愛らしい人形 玩具類も一切取揃ひ置いてますから一應御來店下さい 櫻府第四街千二百十三番 （電話メーン三八四五） 大北商店

櫻府支社 櫻府第四街千四百十四番 電話メーン三〇六六 鮮魚 其他青物 海老、カニ、伊勢 詰類に到る迄御正月用品一切取揃へてありますから多少に拘らず御用命の程願上ます 加州サクラメント第三街千百十七番 キャピタル魚市場

洋食店賣物 市內目拔の場所 千七百弗 七百弗 野菜園二十英町、三年リース付 櫻府より三哩ハイウエー馬具設備、農具一切付六百弗 市內田舍勞働各種 櫻府エル街四二五 電話メーン五四九〇 大山桂庵

崎山商店 櫻府エム街三〇一番 電話メーン三九八
松野齒科醫院 櫻府日本銀行樓上 電話メイン五一七〇 住宅第四街一二〇四
丸三商會 切花及寫眞機 櫻府第四街一一三 電話メーン四三七七W
日本鳥屋 第四街一三〇七 メーン三一一W
紀伊商店 和洋雜貨、金物類 エム街三〇〇 電話メーン七七一
櫻面都魚店 第三街一二一九 電話三五七八セイ
イーグル藥店 イーグル病院 櫻府第三街一二一〇 電話メーン二九四七R
大和家具商會 櫻府六街と二二六エルとエムの間 電話メーン三八六七W
保險 武田正夫 櫻府エム街四三一 電話メーン五〇三〇W
降矢時計店 櫻府エル街日本座向 電話メーン二八五一W
サクラ藥店 櫻府エム街三二四 電話三七八一 藥劑師 吉田勝太郎
大北館 櫻府第四街一二一六 電話三八四五R
岡山旅館 櫻府エム街四二六（五街の角） 電話メーン一五二〇
川村旅館 櫻府エム街三〇九 電話三二八八 川村伊太郎
肥後屋旅館 第三街一二二三 電話三〇二八 新居兄弟
備州ホテル エム街三一〇 電話メーン三六六J 山田
日本館 櫻府第四街一二二七 電話メーン一一二一M
西村旅館 第四街一三二四 電話二三五七W
日の本旅館 エム街三二三 メーン三〇一四
廣島旅館 櫻府日本町八 電話メーン五二四七J
日本寫眞館 第三街一二〇六 電話三二二三セー
吉田寫眞館 第四街一二一七A 電話四三七七セー

移轉開業披露大賣出し 十二月一日より向二ケ月間大々的の大賣出し御買物一弗毎に福引券及び割引券を差し上ます 須市南エルドラド街二四五 錦帶堂ドラグストア

▲新米特價 空前の大安賣 ▲年末年始御用品 大賣出し 櫻府第四街一二一五 谷本商店 電話三六四三

人員募集 來れ河下に！ ▲ブルーニング、馬使ひ ▲其他農園仕事種々 待遇法は特に注意可仕候 ウオーナツグローブ 河下日本人會 農事部

竹本ドラグ 櫻府第三街一二一三 電話メーン五二四七W
公認 吉田齒科醫院 櫻府第三街とエムの街角 電話メーン一三九九ゼー
東西商會 吳服雜貨及食料品 櫻府第四街千二百十四番 電話二六六七W
麴 味噌製造所 櫻府エヌ街四二七 電話二九三三セー
自轉車 歸國御土產 堅牢で ピーヤス アイバ ジヨンソン 日本への歸國土產には自轉車が第一 此の二つは路道の惡い日本では大いに交通の便利になります 乘心地よし ヱルヱム商會 2114-4th St., Sacramento
下島寫眞館 櫻府日本銀行樓上 電話メーン三一一五セー
黑河寫眞館 櫻府第三街一一二五 電話メーン一二六五W
みかど魚店 鮮魚、野菜其他罐詰類卸小賣 櫻府第三街一一二四 電話三七八六
朝日時計店 第四街一一二九 電話一八七三R
酒井藥店 櫻府第三街一一二五 電話メーン四九三一Y
鍼灸採療治 エヌ街四百八番 內務省免許 電話メーン二九六〇J 根立院
櫻府公認產院（いろは跡） 岩井きよ 第三街一四一六 メーン三五八五J 盤江嶋子 エヌ街三一四 メーン二〇二一R 山浦なつ子 第四街一四一〇 メーン三六八六W 小林ひろ子 第四街一四〇三 メーン四八三 宮崎アイ 第四街一四一八 メーン四二一五M
高橋通辯事務所 櫻府第四街千二百十番 電話メーン三九二一セー 住宅三〇九四

宮崎醫院 櫻府第四街千三百廿三番半 加州公認 アイオワ州立醫科大學出身 ドクトル・オブ・メデシン 宮崎秀太郎 電話メーン四二六九W
沖田醫院 櫻府エム街三二九 住宅電話メーン二九六〇W（醫院電話架設中） 加州公認 ドクトルメヂシン 沖田楠之進 出張所ウオナツグローブ 三田湯二階（日曜午後一時より六時迄）
ドクトル 柴太郎 櫻府第四街一三一八 電話メーン六四三
唐津エンゼル病院 加州公認 櫻府エム街二百二十八番 電話メーン二一〇壹 唐津病院 病源研究所
杉本事務所 土地賣買 通辯事務 メリスビル市二街デー街角 電話二五一 住宅東洋旅館內
廣島商店 和洋食料雜貨 櫻府エム街三〇九
隆辻便利社 櫻府四街一二〇五 電話三一一五W 住宅電話四六八W
いなか商店 食料品金物類 櫻府第三街千二百十五 電話メーン三二二一
石井醫院 櫻府第三街一一二七 加州公認 東京帝國大學醫學士 石井銀佐 電話メイン六三三
佐藤齒科醫院 公認 櫻府第四街一三〇八 電話三五八一セー 齒科醫學士 佐藤廣吉
移轉 清水商店 須市南センター街三〇九 電話四五七 Phone 457 309 S. Center St., Stockton, Calif.
須市ホテル 室內清潔 玉臺の設備あり 東マーケット街一二四 電話七三一 水谷猛
米國屋 井上商會 各種肥料 サック 古サックもあり 太平洋肥料會社肥料一手販賣 櫻府エム街三百十二 電話メーン一八三一セー
O.K.家具金物商店 專門譯紹介及通辯、診察室設備完全 櫻府エル街四二四（新築落成） 電話メーン四六七〇（ベンター應賣）
公認 ライオン藥店 櫻府第四街千二百十七番 電話メーン一五六六 店主 木家
株式會社 日本銀行 櫻府第四街とエル街角 電話メーン一〇七八

吉村商店 和洋食料品 櫻府エム街四〇一 電話メーン一二三七
岩本齒科醫院 櫻府エム街三一〇（備州館內） 櫻府第四街一四〇四半 電話二〇九〇W 電話メーン五四六五W
生命保險 片岡貫一
春木醫院 櫻府エム街六〇八、六街と七街の間（オールドパピリオンの前） ドクトルメヂシン 春木柳平 電話メーン二二四六ヤー
名出病院 加州公認 櫻府第四街一三二一 電話メーン八九七 ドクトルメヂシン 名出三郎 內外科、小兒科、產婦人科 診察午前九時より午後八時迄
靴 櫻府角屋 津田商店
保險 櫻府エヌ街一〇 末本
有明商會 櫻府第三街一一二八 電話メーン三六一一
村上醫院 加州公認 櫻府エム街三一四 電話メーン三〇五ゼー ▲內科▲外科▲婦人科▲肛門科▲內臟外科 元帝國大學病院在勤 ドクトル 醫學士 村上利通 住宅第五街PとQの間 電話一九七七W
谷本商店 和洋食料 卸小賣 櫻府第四街一一二五 電話三六四三 河下

タフトホテル 室內清潔、設備完全 御來市の節は是非御投宿を願ます J. Hayaishi, M. D. 44 S. El Dorado St., Stockton, Cal.
友岡旅館 ウ村郵函一〇五 コートランド二九四
須市支社
石川醫院 須市東ワシントン街二八 加州公認 電話醫院五〇八三 住宅四九六三W ◎內外科◎產婦人科◎泌尿科 ドクトル 石川榮助
江頭豆腐店 東ラフエッテ街二九 Tel. 4408W
內田醫院 須市南エルドラド街二二八 電話二二九四 福岡縣人 加州公認 ▲內科▲小兒科▲外科▲泌尿科▲肛門病科 獨逸ドクトル 醫學士 內田賢助
高橋商店 糀 食料品 雜貨商 スタクトン 電話三三九四 333 S. Center St., Stockton.
須市蓄音機店 シンガー裁縫ミシン販賣 6 W. Market St., Stockton, Calif.
工藤齒科醫院 日本藥店二階 公認齒科醫學士 工藤盛勝 公認齒科醫學士 中原久一 電話二二三下
公認 北原產院 須市南センター街一三七 電話一九一W
貸自動車 須市東ラフエット街一二七 清水 電話二四七五
國井時計店 金銀寶石、時計修繕 質店 せんべい製造販賣 40 E. Washington St., Stockton, Calif.
須市旅館業組合 パナマ 日本旅館 豊明館 尾張屋 加州館 ヨセミテ 中島ホテル 南海屋 福岡屋 安藝旅館 サンオキン サツマヤ 紀州館 錦帶旅館 ミカド 廣島屋 肥後屋
公認 久世產婆 須市南マデソン街二二〇 電話二九〇三ブリユー

早石醫院 須市南エルドラド街四四〇 電話四九〇四 住宅電話三三六二 央加南州公認內外科醫 ドクトルメヂシン 早石實藏
タフトホテル （電話三六四〇） 麻生德三郎
保險 ウエスタンステート 1309 4th St. Sacramento 電話メーン四〇三八M 河本源吉
移轉 岡本醫院 須市南センター街一二四 錦帶ビルデング ドクトルメヂシン 岡本力一 電話八五三
佐藤商店 食料品、雜貨類、大勉強 須市南エルドラド街二四五 電話二二五五 119 W. Washington St., Stockton, Cal.
貸自動車 須市南センター街三一〇 電話一九八八 平榮太
津玉商店 和洋食料品 電話八七 323 S. Center St., Stockton, Cal.
西村產院 須市南マデソン街一一九 電話二〇二三ゼー 自動車の設備あり
島田豆腐店 須市南エルドラド街三二〇 電話四六〇〇J
木村シンガーミシン店 須市東ラフエット街四四 電話三三五七W
竹本魚店 東ワシントン街二六 電話一五五六
材木屋 キヤンプ用木材を格安に御需めに應じ候最も波止場に近し シムソン グレー Simpson-Gray Lumber Co. 124 W. Weber Ave., Stockton 電話スタクトン二〇四
花屋 加州花店（電一二四〇）
金物・STOVE・厨具 THE RUHL-GOODELL CO. 315-319 E. Weber Ave., Stockton. 7-9 N. Calif. St., Near Main
須藤文明堂 書籍 雜誌 38 E. Market St., Tel. 329
安樂心 支那料理 室內清潔 ▲料理鮮良 ▲諸君歡迎 ▲宴會並出前 電話一七六九
ロータイ商店 電話ロータイ八五 P. O. B. 121
ヴアレー材木店 Valley Lumber Co. ▲各種材木大勉強 ▲日本人諸君を歡迎す 櫻東エルム街洗濯所向側
廣島屋 御旅館御料理 電話ロータイ四四 20 N. Main St., Lodi, Calif.
中國商會 食料雜貨 南メーン街 郵函二四五
佐
榮喜洋服店 男女子供用洋服 帽子其他一切 サンノゼ市ジヤクソン街一八七 電話サンノゼ四二七一
華村 パーラント葬儀社 自動車使用諸事懇切取扱 イーストレーキ街三五 電話六三三ワイ Burland Undertaking Co.
石野寫眞館 晝夜共寫眞撮影 佐市ジヤクソン街一二〇 電話三五〇 ハジェー
木村保險事務所 ニユーヨーク生命保險會社代理 サンノゼ市北第三街五五六

不鳴千鳥 (百三十)

長谷川 伸

餘りに長い間凝視してゐる露枝を、不審しがつて槐太はうつむく顔をあぞきました、と心づいて露枝は槐太の顔を眺めました。その眼には涙が浮べられてゐました。

『知つてるかなた?』

『あゝ人よあの人よ』

露枝は低い聲を顫はせていひました。

『あの人や、なんがあの人やおて嬢さん、云ひなさい』

『芝公園で太兵衛に逢つた時最初出てきたのは、あの人』

『ぎやッ』

槐太は途方もない叫びをあげて突き落しました、大事な大事な露枝さんを、世の中の闇へ突き落した奴が見つかつた!と彼は最う絞殺しかねない樣子でした。

『お坐なさい』

『な、い』

不承無承に坐つた事は坐つたものの、槐太の鏡の如き眼は、仇敵を睨んで動きもしません。

『お知らずに熊崎は不快な重たい氣もちを抱いて、電車の搖れる儘に力の抜けた風でありながら噛んだ唇だけは力が入つてゐました。

『お嬢さん、あ奴がうげな奴と判つてもりました、先頃お奴を捕へましたのぢや、知らんちうたのぢや、幾度も取逃がしてばかい居りました。

『そぎやん事は云ふものでなかたい、あげな奴は捉へて辛き目の見せてやらんば、天道樣ん叱りますばい』

『およしなさい』

『な、い』

低い聲の應答ではありましたが二人が一言づゝに熊崎の方を見るので、近くにゐた者は熊崎の方を矢張り見ました。

熊崎の血色は至つて勝れず、尋常でない事は誰が一目しても判然してゐました。

電車は品川をうに過ぎました。

『ねゑ何時だもう、間に合ふかしも』

『確と間に合ふばい桑山さんなら』

九時の滾車ちやと云ひました。

『槐太は口惜しさうな眼で熊崎の方を睨んでゐましたが、露枝にさういはれると今夜は何もさせない事に氣がつきました。二人は今夜九時の滾車で東京驛から九州へ護送される大池治一郎を外所ながら見送らうとするのでした。

濱松町の黄昏驛を出た頃には熊崎の元氣は大分よくなつて來て居ました、一時的に起つた苦しみも除かれて惡かつた血色も稍恢復してゐました、たゞ腹の何處やらに力の不足を覺ゐるだけが異狀でした。

槐太は途方もない叫びをあげて新橋を出た時に露枝は血がのぼつて顔に稍赤みが加はつて來てゐました、遠い九州へ人殺の嫌疑で護送されて行く父の治一郎は閉けば此の間中ずつと病氣をして病監に収容されてゐたと云ふのです、病後の老いた父が、冷たい別な監獄へ又送られて行く時間が近づいて行くのです、露枝の心も體もワクワクを顫へて來ました。

◆不思議に高いお酒

◇春頃から五割高

▲品は有餘つても酒の飲めぬ在米の上戸連には少々罪なる話だが日本の酒の高いことを左に紹介する、酒は今春の世間が未だ景氣に醉つてゐる時分から眞先に暴落し、其後もトン〳〵拍子に瓦落したので上戸黨からは安い安いと謳歌される一般かも酒は

▼非常に安くなつた樣に思はれて居るが實際は驚くべし日本銀行の物價調べに依ると九月の指數二百二十一に對し十月は一躍三百四と云ふ暴騰を告げて居る、即ち十月は九月より約三割かも高くなつた譯で、これでは今年の正月頃と餘り大した値段の相違はない、又この四月

▼花見頃の底値かも見るべき五割以上の暴騰と云ふことになる、此調子で行くと目の前に迫つた正月にも餘り甘い酒は飲めぬ、酒問屋組合側の意嚮を訊くと曰く『今春來品物が賣れないのと持荷が澤山ありたる爲め始末に困つた結果が、この春の

▼暴落なり、なり、その後一時持ち直し氣味になつたが再び此夏の越せない品物の處分賣を始めた爲めに又も夏場は暴落を來げた、併しうゆの品物も大抵一段落ついた爲め、九月の末から十月にかけて再び酒は騰貴し目下仕入期節で產地からは荷物が多數送られて來るが全體の

▼景氣はまだ恢復したのでなく荷物の付け具合は惡く既に東京丈けでも二萬六千樽から停滯して居る、その爲め數日前から却つて各等約五十圓の下落を見た、目下の相場は飛切(十樽)千三百圓乃至千五百五十圓、最上九百二十五圓乃至千二十五圓

▼極上が七百七十五圓乃至八百五十五圓、それから最下が三百圓乃至四百圓で、月變りの十二月に入つたもどんな變化を見るか知れぬが、只今の處は餘り面白い商況ではない』

一口噺

◎ 春耳生

『日本の滾賣り程正直者は世界中に無いとな』

『妻』ナゼですか

『夫』水を六分入れて滾を四分入れてシブシブを賣るから

◎ □生

『東京市の大疑獄は砂利から火の手が上つたのですよ』

『老爺』それが矢張天罰だ本當の砂利を使つてたけば燃ね出す樣なことはないのだ

讀者『東京では巡査の帶劍の長いのがいゝか短いのがいゝか中々決しないそうだ』

『三太郎』チャン拳で決めたら早いだらう

◎ カメリヤ生

『甲』『東京疑獄は芋蔓式檢擧をやつて居るぞね』

『乙』大方被告は皆薩州人だらよ

○鐵道省では是から男女同視でやるんだぞね

△『ヘエー、男女同權は米國が本場だよ』

○『そりや汽車屋さんだけ早い』

俚謠正調

○鍋の響が水の心までも、沁みてはらく散る紅葉

○山の表は明るい紅葉、裏にや時雨の松もある

○木綿ながらも子に纏ふ晴着、貧しけれども祝ひ月

○弛むともなく祝ひの心、すんでゆるんで眠る山

診察 平日午後一時より六時まで 時間 日曜午前九時より十時迄
日本病院 入院隨意
桑港パイン街一八一一 電話フキルモア二〇〇四

帝國病院 1629 Post St., S. F. 入院隨意
醫學博士 渡邊恭禮 顧問
主任 ドクトル 伊津野房一郎
桑港ポスト街一六二九 電話ウエスト七二六二

桑港 公認 齒科醫師
北河醫院 加州 公認
スタンフォード醫科大學出身 ドクトル・オブ・メヂシン 北河慶次郎
電話フキルモア五二八八

加州齒醫科醫師會
桑港ブキャナン街一五五二 井戸本保之助
桑港ポスト街一七七九 林德太郎
桑港ポスト街一四二〇九 田中敏太郎
桑港ブキャナン街一七三九 小川榮一
フィルモアー九二〇
桑港ポスト街一五三〇 谷田部保
ウエスト五二二
桑港ブキャナン街一六六八 山本辰雄
フィルモアー一二六八
桑港サター街一八七七 藤田省三
ウエスト八三五〇
桑港ポスト街六四〇(五車堂二階) 木暮篤太郎
フィルモアー一二六〇
桑港ポスト街一六六二 檜垣登一
ウエスト二四八四

桑港 公認 齒科醫
(いろは順)
(いろは順)

東京及米國一手販賣 三德商會 桑港クエスター街一五六二 電話ウエスト四二七一
THE EXCLUSIVE CUTLERY SHOP
115 Stockton St., San Francisco
J. A. Henckels
ふじ子印
及物
一切
卸小賣
TRADE MARK. THE TWINS.
消火器 各國專賣特許 自動 之を備へれば火事の恐れなし

かまぼこ 金門商會 桑港グリー街一五二九九 電話ウエスト四三七九
製造卸小賣 特に御贈答品は御注文次第調製 並に鮮魚食料品一切

桑港プッシュ街一八〇八 電話フキルモア一九八六 夜間フィルモア五〇七
草間醫院 公認
スタンホード醫科大學出身 ドクトル・オブ・メヂシン 草間良男
住宅サター街一七三九

英語教授 初學者、新渡航者、婦人及年少者の爲に懇切教授す
寺澤教館 二八一一 電話アイルモア二一二〇 桑港グリー街一四二八

眞鍋產院 公認產婆 眞鍋はつよ 電話ウエスト七四一八

桑港ポスト街一五二八 電話ウエスト五七六八
川口產院 公認產婆 川口藤子 桑港ブキャナン街一七二四 電フキルモア四九四七
內務省免許產婆 倉本ひな 桑港プラシュ街一九〇七 電話フキルモア一九〇四
林產院 公認 桑港ポスト街一五二八 電話ウエスト五七六八
產婆 小林ちか 桑港アクシュ街一九五四 電話フィルモア三七〇七
小林產院 公認產婆 桑港ポスト街一六二四 電話フキルモア一七六一
村山なみゑ
公認產婆 內務省免許產婆 林產院 倉本ひな 桑港プラシュ街一九〇七 電話フキルモア一九〇四
公認產婆 林イエ

▲開年前創立▲特に女學部設置▲教師白人四名日本人二名あり▲ヴェール博士は日本語に精通▲完備す美以教會寄宿舍と接す
美以英和學校 桑港パイン街一三五九

桑港グリー街一五九九 電話ウエスト四三七九
金門商會

大阪藥店 公認 調劑 郵送 無料
●滋養強壯活力素 坪井博士發見 一ヶ月一弗六十錢
●有効確實つゝわり錠 米國製劑 三週分二弗
●男女強精錠 百錠入一瓶五弗 二瓶九弗三瓶十二弗
●字印胃腸丸 米國製劑 百錠入一弗
●赤十 ●朝鮮人參五〇〇 ●わきが妙藥一、三〇 ●タラコン散一、二〇〇 ●大木五臟圓一、〇〇〇 ▲和洋賣藥化粧品文房具等一切取扱行之候
藥局 多年の經驗ある日白人藥劑師によりて適藥を低廉に提供す 桑港ポスト街一五九四 電話ウエスト三四七四
OSAKA YAKUTEN 1594 Post St., S. F. Calif.

藥局 公認 調劑 日本ドラグストア 桑港ポスト街一六九〇 電話ウエスト一八六
NIPPON DRUG CO. 1690 Post St., San Francisco.

高尾鶴松 桑港スタクトン街七五八 電話カーネー二四七六
隔週病院囑託通譯

小川藥舗 1708 Buchanan St., S. F. Cal.
●小川製劑 婦人病藥 內用 百錠入 三弗 外用 四十個分 二弗
めぐり前後の下旅病、こし等婦人病一切の良藥
●肥える藥 一ヶ月分 二弗
オーター強壯劑は血の少ない人、やせる人、氣力體力なき人等に最もきめる良藥なり
●アフロヂヤック錠 百錠入五弗 二瓶八弗
此藥は何れも神經機能の衰弱から出し精力を增す強壯藥にて不性症の婦人等に用ゐて効果多し
●オシメカバー 最上米國製 一弗
●最上湯たんぽ 保險付 四弗
電話ウエスト九五七 藥劑師 小川龜重

ホテル ニューヨーク
ロスアンゼルス市東第二街三〇五(電話二二八六七)
食堂、自動昇降機、スチイム、ヒーター等最新設備
Hotel New York 305 E. 2nd St., L. A. 館主岡崎敬之介

羅府 醫學博士 劉日初 桑港グラント街五〇二 Dr. LOU YIT-CHO
診察時間自午前十時至午後九時 通察時間自午前十時至午後九時

公認 大久保醫院 齒科醫院 平日午前九時より午後五時迄
406 Sutter St. Cor. Stockton Mc Laud Bldg. Room 304 Tel. Sutter 7455

桑港埠頭キールートより便府行 便府より桑港行毎二時間發車す San Francisco-Sacramento R. R. Key Route Ferry, Phone Sutter 9133
桑港電氣鐵道 及川旅館 丁寧親切低廉 御一報次第御出迎申可く候 電話ドグラス五九五九 2951 Ellis Ave. Chicago, Ill.

▲市內無料送迎 ▲特別安價 ▲日本人料理 ▲ビヤホール ▲ビリヤード ▲ボウリング ▲ダンスホール ▲ゴルフ ▲テニス ▲ヒツチ
桑港ポスト街一六二四 電話ウエスト三四七四
桑港ブキャナン街一七二四 電話フィルモア三七〇七
桑港ポスト街一六二四 電話ウエスト三四七四
桑港ポスト街一六二四 電話ウエスト三四七四
桑港ポスト街一六二四 電話ウエスト三四七四